							漫子 部
科目区分	専門教	な育科目 専門科目 看護の本質と	看護技術			聴講	可
授業科目名	看護学	概論				科目履修	可
科目番号	N 1 1	0 0 1	クラス番号	N 1			
授業形式	講義	· ·	必修選択区分	必修			
開講時期		(前期セメスター)	単位	2 単位 3	0 時間		
科目責任者	吉富美	·	その他	- 1			
担当教員		· 一	- 12				
15 3 秋 貞		1、1%配有設于教員主員、有設及 を を が が が が が が が が が が が が が		四位1.1、3	· 手: #	カサナ畑へたみど	> 1.7 F
授業の概要	り、抽 学際的	と、参加観察美育、興音を通し、有 日象的な概念と具体的な現象の連関 日学問としての看護学の特徴及び看記 我の役割と機能を学習する。	を理解する。また	_、看護職・	看護学の	歴史的発展などを	学習し
学 科 目 的 学 科 目 標		看護学の成り立ちと特徴を学習すれる。 1. 看護職・看護学の歴史的発展 健康、環境について理解する。 2. 看護の目標、対象、役割と機能 3. 看護学及びその実践の基礎とお	を学習することし。 。 能を理解する。	こより、看記	護学の基プ	本概念である看護	、人間、
	□	授業内容	\$		授業 方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当
	1	授業の目的・目標及び学習方法の -本学のカリキュラムにおける看		づけ	講義		小川
	2	大学で学ぶということ -大学での学び方、スタディスキ	ル		演習		岩波
	3	看護における専門用語及び定義					吉富
	4	看護の起源 - 太古の昔からある看護の機能と看護職者の成立				岩波	
	5	看護職の起源(2)					岩波
	6	看護職の役割と機能(1) -看護の目標と看護職の専門性					吉富
	7	参加観察実習オリエンテーション				毎回、学習課題	吉富加藤
授業の内容と方法	8 9	参加観察実習:看護学の基本概念に 行為場面を参加観察する	に関連した現象を	と含む相互	実習	を提示	グルー
	10 11	演習:参加観察した結果を統合し、	概念間の関連を	理解する	演習		担当教員
	12	看護職の役割と機能(2) -看護職の活躍の場と看護実践の	法的根拠				吉富
	13	看護学の特徴(1) 看護実践を支える知識 -看護理論: ヘンダーソン看護理	論とキング看護	理論			岩波
	14	看護学の特徴(2) 看護実践の方法論 一問題解決的アプローチ(看護過程	呈)		講義		吉富
	15	看護学の特徴(3) -看護学の起源 -看護学の展望 看護学概論総括					吉富
	16	筆記試験					1
評 価 方 法		型察実習・演習(40%), 筆記試験(60 (40%)	0%)				
F. IMI // IA		護協会編:新版 看護者の基本的責務-		法/倫理 日	本看護協名	♠出版会. 2006	
## TN ==-		暖励去編・初版 有暖有の盆本的真協 ジニア・ヘンダーソン著;湯槇ます他記					
教 科 書	A. W	. コーンハウザー著;山口栄一訳:大学	学で勉強する方法,	玉川大学出版	反会,2009		
		学基盤教育院編:スタートアップセミラ				学出版会, 2010.	
参 考 書 参 考 文 献 等	フロー	フィンA. ドラン著;小野泰博他訳: 君 レンス・ナイチンゲール著;薄井担子他 ジン・M. キング茶・杉本カビ思想・1	也訳:看護覚え書	改訳第7版,	現代社,	2011.	
備考	ノイモ	ジン・M. キング著;杉森みど里訳:=	ハイソ 有 護理論,臣	4. 子音阮,198	υ.		

				,		有護子部
科目区分	専門教育	·科目 専門科目 看護の本質と看護	技術	聪	京講	可
授業科目名	看護技術	学概論		和	目履修	可
科目番号	N 1 1 0	0 2	クラス番号	N 1		
授業形式	講義		必修選択区分	必修		
開講時期	1年次	後期セメスター	単 位	2 単位 30 時	間	
科目責任者	肥後すみ	子	その他			
担当教員	看護技術	r学全教員、機能看護学教員		'		
授業の概要	際の看護 れる実際	いう概念及び看護職の実践を支える 技術提供場面を参加観察する実習を を学習する。さらに、看護技術と看 より効果的な看護を展開するために	通し、様々な 護過程・看護	看護技術の特徴 理論の関係を学	とそれらが初	复合さ
学科目的学科目標	目標:1 2 3	護技術の特徴とそれを支える要素を . 看護技術の定義を明らかにする。 . 看護実践を構成する看護技術の特 . 看護技術が、看護過程を通して複 . 看護技術の修得がより効果的な看	徴を理解する 合されて提供	。 される実際を理	解する。	
	□	授業内容	授業方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当	
	1	技術とは、看護技術の定義				
	2	参加観察実習オリエンテーション	講義		肥後	
	3 • 4	参加観察実習	実習		肥後,岩池爪,土井,	高橋,
	5	参加観察実習後の演習)	保坂,田海部,大川,	
	6	演習後のグループ発表	演習	演習後にレポート提出	北島,山下	
	7	看護技術学の定義と構造 看護技術の特徴	講義		肥後	
授業の内容	8	看護技術の構成要素	講義		肥後	
と方法	9	看護技術に共通する基本技術① ボディメカニックス	講義		肥後	
	10 • 11	看護技術に共通する基本技術① ボディメカニックス	演習	演習後,自己評価表提出	肥後, 土井川, 高橋,	保坂, 部, 佐
	12	看護技術に共通する基本技術② 感染予防	講義		肥後	
	13 · 14	看護技術に共通する基本技術② 感染予防	演習	演習後,自己評 価表提出	肥後, 土井川, 高橋, 田渕, 服音藤, 北島,	保坂, 部, 佐
	15	看護技術学の課題と展望 ・看護技術に関連する倫理的配慮 ・看護技術の発展と課題	講義		肥後	
評 価 方 法	試験(50)%)、レポート(20%)、出席(30	%)、授業に対	対する積極性等を	を総合的に半	川断す
教 科 書	なし					
参 考 書 参考文献等	別途提示	÷				
備考	特になし	,				

							看護学部	
科目区分	専門教育	育科目 専門科目 看護の本質と看護技術	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			聴講		否
授業科目名		析学各論Ⅰ (アセスメント技術)				科目	履修	否
科目番号	N 1 1 (0 0 3	クラス	番号	N 1			
授業形式	演習		必修選技	尺区分	必修			
開講時期	2年次	前期セメスター	単	位	2 単位	60 時間		
科目責任者	肥後する	み子	そ O.) 他				
担当教員	看護技術	析学全教員、機能看護学教員						
	この担	受業においては、呼吸、循環、排泄、運動	機能など	の観察に	必要な技行	術及びこれ	ぃを活用したフィ	ジカル
授業の概要		メントの実際を講義、演習を通して学習す						
以来以风女		って学習するとともに、実際のアセスメン					を通し、看護実践	に必要
		なアセスメント技術とそれらにより獲得し				解する。		
		対象の健康状態を把握するための基礎的な			当する。			
学科目的		1. アセスメント技術の学術的な原理原原 2. アセスメント技術を学術的な原理原原			- z			
学科目標		2. アセスメント技術を子帆的な原理原 3. アセスメント技術提供の実際を理解。		、(天旭)	90,			
子 付 日 馀		4.1から3を通して、対象の持つ問題を		ころためば	アヤスメ	ント技術	を翌得する音差	
		を見出す。	. 71 PE C /	Ø1C*/(-, -,	· 1 12/11		
	囯	授業内容		授業	事前・事		担当	
	Ш			方法	(学習	課題)	1브 크	
	1	学科目ガイダンス:アセスメント技術 観察の技術と情報収集の実際		講義			肥後	
	2	測定の技術と情報収集の実際(身体計	測)				土井	
	3	測定の技術と情報収集の実際 (バイタバ		講義			土井	
				714 474			土井,大川,佐藤	肥後,
	4 · 5	測定の技術と情報収集の実際		演習	演習後, 提出	自己評価	高橋, 保坂, 田渕	服部,
	- 0	(バイタルサイン)			1定山		山下, 北島,	
	6 7	内的環境のアセスメント(呼吸機能)		講義			大川	
	- 1	内的環境のアセスメント(循環機能)					肥後, 土井, 大川佑	-
	8 • 9	内的環境のアセスメント(呼吸・循環	機能)	演習	演習後,	自己評価	橋,保坂,田渕,服	
			提出				山下, 北島	.,
	10	内的環境のアセスメント(運動機能)		講義			土井	
	11	内的環境のアセスメント(知覚機能)		冊載			大川	
	10 10	 内的環境のアセスメント(知覚・運動	松谷口)	冷 괴괴)수 33 4V	白口並加	土井,大川,佐藤	
	12 · 13		1及16/	演習	演習後, 提出	日口評価	肥後,高橋,保坂, 服部,山下,北島	
	14	内的環境のアセスメント(外皮・免疫	機能)	講義	72 [大川	,
授業の内容	15	内的環境のアセスメント(消化吸収		講義			大川	
と方法		(111)	,,,,,,		演習後,	自己評価	大川, 土井, 佐藤	肥後,
C / / / /	16	内的環境のアセスメント(消化吸収材	幾能)	演習	提出		山下, 高橋, 保坂	田渕,
	1.77	中的理控マキュノント(と理的側面)					服部, 北島	
	17 18	内的環境アセスメント(心理的側面) 環境と安全に関するアセスメント		講義			肥後 大川	
	19	参加観察実習オリエンテーション					肥後	
	13	参加観景天日々ケニンケーション		₩ 77			肥後,岩波,北爪	十#.
	20 • 21	参加観察実習		実習	実習後,	レポート	大川, 佐藤, 高橋	保坂,
					提出		田渕,服部,北島	
	22	検体採取の技術と情報収集①		講義			佐藤(肥後)
	23	検体採取の技術と情報収集②		11142	演習後,	白口証価	土井	
	24 • 25	 採血の技術		演習	提出	日口計画	土井, 佐藤, 肥後, 高橋, 保坂, 田渕,	
	24 25	1米皿(ジ1文例)		供白			山下,北島	, 여덟 제
					試験範囲	の提示を	大川, 土井, 佐藤	. 肥後,
	26	実技試験		演習	受けたら	自己学習	山下,高橋,保坂	. 田渕,
	97	 包括的アセスメント I (身体の清潔)			を行う		服部, 北島	
	27						土井	
	28	包括的アセスメントII (運動と休息)		講義			土井	
	29	包括的アセスメントⅢ(栄養と代謝)	石古)				土井	
	30 等記試問	包括的アセスメントⅣ(排泄・性と生 倹(50%)・実技試験(30%)・レポート(2		トル総合	 的に証価	する	大川	
評 価 方 法		映(50%)・美技試験(30%)・レホート(2 日時は別途指定する。	ひ/0/守に	より応行	ロア七世一人によ	ッ つ。		
教 科 書		掛他編:ヘルスアセスメント, ヌーヴェ/	レヒロカワ	7, 2005				
参考書		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		,				
参考文献等	授業には	おいて提示する。						
備考		は看護技術学各論Ⅱ,Ⅲ,V,Ⅵに関連		である.	そのためり	以後に学習	習する看護	
VH 与	技術学は	こ活かせるように意識して学習してほしい	٠١.					

	T					Ι		
科目区分		科目 専門科目 看護の本質と看護技術				聴講		否
授業科目名		学各論Ⅱ(生活行動支援技術・生活機能維持				科目履修		否
科目番号	N 1 1 0			ス番号	N 1			
授業形式	演習		必修選択	., ,,	必修			
開 講 時 期		3323 - 2	単	位	2 単位 60	時間		
科目責任者	肥後すみ	子	そ 0	り他				
担当教員	看護技術	学全教員、機能看護学教員						
授業の概要	に関する技動・知覚・ 知識を学習 する実習を	****)技術に関 態能を維持 なするため	して、その ・促進する 、実際の生	対係を支える理 ための技術に関 活行動支援技術	間論的知識と 関して、その ・生活機能	: 方法論的知識を学習す 対技術を支える理論的知 維持促進技術の提供場	る。また、通識と方法論的
学科目的 学科目標	目標:1.4 2.4 3.4 4.4	象の安全・安楽な生活の支援に必要な基礎的 生活行動支援技術・生活機能維持促進技術の会 生活行動支援技術を学術的な原理原則に基づい 生活機能維持促進技術を学術的な原理原則に基 生活行動支援技術・生活機能維持促進技術があ 1 から 4 を通して、対象の安全・安楽な生活を 維持促進技術を習得する意義を見いだす。	学術的な加 いて実施 基づいて 基供され を支援する	原理原則を する。 実施する。 る実際を理 るために生	全記述する。 里解する。 E活行動支援技	支術、生活4		! する。
	日	授業内容	授業		事前·事後学習 (学習課題)		担当	
	1	学科目ガイダンス	方法 講義		(学習課題)		肥後	
	2	生活空間の移動を支援する技術	講義	事後:渖	習振り返り		 保坂	
	3	生活空間の移動を支援する技術		7			保坂, 髙橋, 佐藤,	肥後,土井,
	3		演習				大川, 田渕, 服部,	山下, 北島,
	4	生活空間の移動を支援する技術	講義		術学概論 11・1 クス,各論 I の		高橋	
	5. 6	住生活を支援する技術 (ベッドメーキング) 生活空間の移動を支援する技術	演習	境と安全 論Ⅱの4	に関するアセス 回 : 住生活を支	メント, 各	高橋,保坂,佐藤,大川,田渕,服部,	
	7	住生活を支援する技術	講義	を復習す・ 演習の	ること, 振り返り用紙の	提出	高橋	
	8	住生活を支援する技術	冷 되지				高橋, 保坂, 佐藤,	肥後, 土井,
	0	(シーツ交換・環境整備)	演習				大川, 田渕, 服部,	山下, 北島,
	9	衣生活を支援する技術	講義				高橋	
	10	衣生活を支援する技術	演習				高橋, 保坂, 佐藤,	
		(和式寝衣の交換)					大川,田渕,服部,	山下, 北島,
	11	参加観察実習オリエンテーション	講義				肥後	
	12	清潔行動を支援する技術(総論)	講義	事前:全	身清拭に関して		肥後	
	13	清潔行動を支援する技術(各論①)	講義	事後:レ	ポート提出			gm 40/2 1. +1+
	14 • 15	清潔行動を支援する技術(全身清拭)	演習				保坂,高橋,佐藤, 大川,田渕,服部, 岩波,北爪,肥後,	山下, 北島
	16 · 17	参加観察実習	実習		レポート提出		佐藤, 山下, 高橋, 服部, 北島	
	18	清潔行動を支援する技術(足浴)	演習	事後:レ	浴について ポート提出	- 7	保坂,肥後,大川, 山下,高橋,田渕,	服部, 北島
	19	実技試験 	演習	尹削に試	験範囲を提示す	ఎ.	肥後,大川,土井,高橋,保坂,田渕,	
	20	清潔行動を支援する技術(各論②)	講義	事後:演	習振り返り		保坂	
	21 · 22	清潔行動を支援する技術 (洗髪)	演習				保坂,肥後,土井大 橋,田渕,服部,山	
	23	清潔行動を支援する技術(口腔ケア)	演習	する技術	第 20 回:清潔? (各論②)の復 振り返り用紙の	習	高橋,保坂,肥後,藤,田渕,服部,山	
	24	食行動を支援する技術	講義		第 29 回:包括6 3謝と栄養に関す		高橋	
	25	食行動を支援する技術(食事介助)	演習	メント)の			高橋, 土井, 大川, 在城, 田渕, 服部, 山	
	26	排泄行動を支援する技術(床上排泄)	講義		第 30 回:包括6		高橋	
	27	排泄行動を支援する技術(床上排泄)	演習	の復習	泄に関するアセ 振り返り用紙の		高橋, 土井, 大川, 作保坂, 田渕, 服部, 山	
	28	清潔行動を支援する技術(陰部清拭)	演習	事前:陰	部洗浄について ポート提出		保坂, 高橋,土井, 肥後, 田渕,服部,	
	29	生命を助ける技術(一次救命救急, AED)	講義	±".	. 1.9 1 1.00 1.11		保坂	
新 /m 上 N	30	生命を助ける技術(一次救命救急、AED)	演習		ポート提出		保坂,肥後,土井大橋,田渕,服部,山	
評価方法		実習における行動目標の達成状況 20%、実技 ************************************						
教科書	糸統看	護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基础	足有護字	[3]] 医	子書院			
参考文献等		子監修:「ケア技術のエビデンス」へるす出版	į					
備考	特になし							

科目区分	専門教育						聴講	/ 日 咬	·子司· 否
授業科目名		·学各論Ⅲ(治療過程支援技術、症状緩和技術	:)				科目層	夏修	<u>-</u> 否
科目番号	N 1 1 0		クラス	番号	N	1			
授業形式	演習		必修選択▷	区分		修			
開講時期		前期セメスター	単	位		単位 60 時	間		
科目責任者	山下暢子		その	他					
担当教員		渕、服部、肥後、北爪、土井、髙橋、保坂、 活は、対象の持つさまざまな健康上の問題を			回端	きするためにっ	大東かり	らげ医師が行	テう治療 上心
授業の概要	要な行動 熱、呼吸 る。この 提供され	を代行し、手術や検査などの治療を対象が円 困難、排泄障害、見当識障害などさまざまな 授業においては、これらの技術の実際とこれ る目的を理解するため、実際の治療過程支援	滑に受けられ 症状を緩和す を支える理記 技術・症状れ	れるよ するたる 論的知 緩和技	うにす かの技 哉と力 術の携	つる。また、 5 6 7 5 5 5 5 5 5 6 6 7 8 8 8 8 8 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9	対象の 常に を学習 加観察	安楽を阻害で 対象の安全分 する。さらに する実習を行	ける疼痛、発 ₹楽に配慮す こ、これらの _{テう。}
学 科 目 的学 科 目 標	る 目標:1 2 3 4	象の円滑な治療受け入れの支援に必要な基礎。 . 治療行動代行技術、症状緩和技術の原理原 . 治療行動代行技術を原理原則に基づいて実 . 症状緩和技術を原理原則に基づいて実施す . 治療行動代行技術、症状緩和技術が提供さ . 1から4を通して、対象の持つさまざまな 治療行動代行技術、症状緩和技術を習得す	則を記述する。 施する。 る。 れる実際を 健康上の問題	る。 理解す 題を効:	る。 果的に				『識を字習す
	田	授業内容		授業	方法	事前・事後 習(学習課題		担	当
	1	学科目ガイダンス		講	義	適宜、授業		Щ	下
	2	薬物療法の過程を支援する技術(総論)			義	に学習課題提示する。		Щ	下
	3	薬物療法の過程を支援する技術(注射)			義	↓ 提示する。 れに応じ、		Щ	下
	4	薬物療法の過程を支援する技術(筋肉内注射	村)	演	習	習成果を提	ŧ		部、肥後、土 、大川、佐藤、
	5	薬物療法の過程を支援する技術(注射)		講	義	1	-1	Щ	下
	6	薬物療法の過程を支援する技術(点滴静脈)	勺注射)	演	習		ŧ		}部、肥後、土 、大川、佐藤、
	7	呼吸器症状(呼吸困難)を緩和する技術		講	義		1	田	渕
	8	呼吸器症状(呼吸困難)を緩和する技術		演	習			日渕、服部、山 喬、保坂、大川	下、土井、髙
	9	参加観察実習オリエンテーション		講	義			Щ	下
	10, 11	参加観察実習		実	習	実習後、レ ートを記 し、提出	載		i橋、保坂、田 、佐藤、肥後、
	12	酸素療法の過程を支援する技術			義	適宜、授業 に学習課題 提示する。	[を 月	服 最部、田渕、山 喬、保坂、大川	下、土井、髙
	13	酸素療法の過程を支援する技術			習	れに応じ、			
授業の内容と方法	14	栄養療法の過程を支援する技術		講	義	習成果を提		<u> </u>	
	15	栄養療法の過程を支援する技術		演	習				」下、土井、髙 Ⅰ、佐藤、北島
	16	排泄機能の症状(便秘)を緩和する技術		講	義			田	渕
	17	排泄機能の症状(便秘)を緩和する技術		演	習				引部、土井、髙 上 佐藤 北島
	18	排泄機能の症状(排尿障害)を緩和する技	術	講	義	1	Tri	喬、保坂、大川 服	
	19	排泄機能の症状(排尿障害)を緩和する技			習	1		设部、田渕、山	1下、土井、髙
			. [1]			4	材	無、保坂、大川山	
	20, 21	手術療法の過程を支援する技術			義	1	1		下 ∃渕、髙橋、保
	22	手術療法の過程を支援する技術		演	習			反、佐藤、北島	
	23	症状緩和の基礎技術			義 習			田渕、山下、肌 反、佐藤、北島	2部、髙橋、保
	24	症状緩和の応用技術①「発熱」の緩和技術	:	講	義	1	1	田	
	25	実技試験		ніғ	**		ŧ	山下、田渕、朋	设部、肥後、土 、大川、佐藤、
	26	症状緩和の応用技術②「出血」の緩和技術	:	講	義	1	1	服	部
	27	症状緩和の応用技術③「疼痛」の緩和技術			義	1		服	
	28	症状緩和の応用技術④「発疹・褥瘡」の緩			義	1		服	部
	29	症状緩和の応用技術⑤「不眠」の緩和技術			義	1		田	渕
	30	症状緩和の応用技術⑤「易感染」の緩和技			義	<u>L</u>		田	渕
評 価 方 法		60%, 実技試験 20%, 参加観察実習 20%							
教 科 書	藤崎郁,任	E和子編:「系統看護学講座専門分野 I 基礎看	護学[3] 基礎	姓看護 挂	支術Ⅱ	第 15 版, 医学	学書院,	2009.	
参考文献等	特になし	,							
備考	特になし	,							

					看護学部
科目区分		科目 専門科目 看護専門職の役割と機能	`		杏講 否
授業科目名		「学各論IV(心理的支援技術・教育的支援技術			科目履修 否
科目番号	N 1 1 0	0 6	クラス番号		
授業形式	演習	/// 	必修選択区分	必修	
開講時期		後期セメスター	単位	1 11-1	
科目責任者	山下暢子		その他		
担当教員		「下、服部、保坂、髙橋、中西、肥後、岩波、 ほ者は、対象が自ら問題を克服するために必要			
授業の概要	れらの支 象自らが 義を理解	接に必要な基礎的技術とこれを支える理論的 注本体的に自己の健康上の問題を克服できるよ するため、実際の心理的支援技術の提供場面	知識と方法論的知 うに支援する意義 を参加観察する実	識を学習する。また を理解する。さらに 習を行う。	、その過程を通して対 、これらを学習する意
学科目的学科目標	る 目標: 1 2 3	「象が自ら問題を克服するために必要な心理・理論的知識と方法論的知識を学習する。 1. クライエントに心理的な支援を行うために変実施する。 2. クライエントに教育的な支援を行うために必 3. 看護実践において心理的支援技術と教育的 5. 1. から 3. を通して、対象自らが主体的に自 がのの理的支援技術と教育的支援技術を習得	5用できる技術を学 公要な技術を原理原 支援技術を活用する 己の健康上の問題。	を術的な原理原則に基 関則に基づいて実施で 過程を理解する。 と克服できるように	基づいて する。
	田	授業内容	授業方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当
	1,2	学科目ガイダンス 心理的支援技術の基礎知識	講義		山 下 酒 井
	3,4	専門職的援助関係成立に向けたコミュニクション技法	講義 演習	演習終了毎に、 演習の成果をま とめ提出	酒井
	5, 6	心理的支援技術①②		との促出	
	7	参加観察実習オリエンテーション	講義		山下
	8,9	参加観察実習	実 習	実習後、レポー トを記載し、提 出	岩波、北爪、土井、髙橋、 田渕、服部、大川、佐藤、 肥後、山下
	10	リラクゼーション	演習		保坂、北島
	11-14	心理的支援技術③④⑤⑥	講義演習	演習終了毎に、 演習の成果をま とめ提出	酒井、髙橋
	15	教育的支援技術の基礎知識	講義		山下
	16	教育的支援技術	講義		服部
授業の内容と方法	17	教育的支援技術演習①	演習		土井、髙橋、保坂、田渕、 服部、大川、佐藤、北島、 肥後、山下
	18	教育的支援技術	講義		服部
	19	教育的支援技術演習②	演習		土井、髙橋、保坂、田渕、 服部、大川、佐藤、北島、 肥後、山下
	20	教育的支援技術	講義		服部
	21	教育的支援技術演習③	演習		土井、髙橋、保坂、田渕、 服部、大川、佐藤、北島、 肥後、山下
	22, 23	模擬授業	演習	すべての教育方 法演習終了後、	土井、髙橋、保坂、田渕、 服部、大川、佐藤、北島、 肥後、山下
	24	教育的支援技術	講義	個人レポート、	服部
	25	教育方法演習 (統合)	演習	グループレポー トを記載し、提 出	土井、髙橋、保坂、田渕、 服部、大川、佐藤、北島、 肥後、山下
		まとめ	講義		山下
	26 - 30	心理的支援技術・教育的支援技術の統合		講義終了後、レ	
			講義	ポートを記載	中 西
				し、提出	
評 価 方 法	心理的支	援技術 30%, 教育的支援技術 20%, 心理的・教育	育的支援技術の統合	20%,参加観察実習	20%
教 科 書	特になし				
参 考 書 参 考 文 献 等	飯田澄美	î:看護教員のための授業設計ワークブック, 注子:ケアの質を高める看護カウンセリング, ::最新 行動科学からみた健康と病気,メジカ	医歯薬出版株式会		
備考			·/· / · / [*]II., 201	,,,,	

						看	養学部
科目区分	専門教	育科目 専門科目 看護専門職の役害	りと機能			聴講	否
授業科目名	看護技	術学各論V(看護過程と看護理論)				科目履修	否
科目番号	N 1 1	0 0 7	クラス	番号	N1		•
授業形式	演習		必修選	択区分	必修		
開講時期	2年次	後期セメスター	単	位.	2 単位 60 1	時間	
科目責任者	山下暢	* 11.71	· ア の			411.4	
担当教員		,				北島	
77 77 77		支術学各論において学習してきたさまざま					商用する
		よりはじめて、健康上の問題解決・回避は					
		える方法論が看護過程であり、看護職者は					
授業の概要		の問題の解決と問題の回避、健康増進を目					
1人米 7 风安		展開する必要がある。この授業においては					
		支術と看護過程・看護理論の関係を学習し					
		看護実践の展開に向けて看護理論を活用す を提示されている。 理論を思いて説明す			するため、対象と	: 看護師によ	る実際の
		為場面を参加観察し、理論を用いて説明す 科学的根拠に基づく看護を対象の個別性に			七光な理師する		
		4子の依拠に基づて有護を対象の個別性に 1.理論の成り立ち、看護理論の特徴と				0	
学科目的	H 755 •	2. 看護過程の各段階と機能を明らかに		· () <u>—</u>	777.00		
学科目標		3. 看護技術と看護過程・看護理論の関係		し、看	護過程の展開方法	とを理解する。	,
		4. 1. から3. をとおして、看護実践					
	口	授業内容	授業	方法	事前·事後学習	担	Y
					(学習課題)	•	
	1	学科目ガイダンス	講	義			下
	2	看護理論概説	講	義			下
	3, 4	ナイチンゲール「看護覚え書き」	講	義		田	渕
	5,6	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講	義		山	下
	7, 8	キング「キング看護理論」	講	義		山	下
					グループごと	土井、髙橋	亿坛
	9	 看護理論演習(グループ演習)	演	習	に演習成果を	田渕、服部	
	Ü			н	資料としてま とめ、提出	佐藤、北島	
					演習成果発表	土井、髙橋	42.15
	10, 11	グループ演習成果発表	演	習	後、レポートを		
	,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			記載し、提出	佐藤、北島	
	12	看護過程概説	講	義		Щ	下
	13	看護過程 (アセスメント)	講			髙	橋
授業の内容と方法	14	看護過程(問題の明確化)	講	義		山	下
	15	看護過程演習(計画、実施、評価)	講	義		髙	橋
				* -	適宜、授業中に	岩波、北爪	+ ++
	10.00	7-#7-11-h-77-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-	\	ব্যব্য	学習課題を提	高橋、保坂	、工开、 、田渕、
	16-20	看護過程演習①②③④⑤	演	習	示する。それに 応じ、学習成果	服部、大川	、佐藤、
					を提出	北島、山下	
	21	参加観察実習オリエンテーション	講	義		山	下
					実習後、レポー		
	22, 23	参加観察実習	実	習	トを記載し、提 出		
					Ш	服部、大川 肥後、山下	
	24	看護過程 (まとめ①)	講	義			下
					看護過程演習	岩波、北爪	
	25-29	看護過程演習⑥⑦⑧⑨⑩	演	習	終了後、演習成		
					果をまとめ、提出	服部、大川 北島、山下	
	30	- 看護過程(まとめ②)	講	義			下
評 価 方 法	看護理論	演習 20%、参加観察実習 20%、看護過程演習 2)%(看護理論 10%		9%)
> -		ンス・ナイチンゲール著:湯槙ます他訳:看記					•
光 幻 1	ヴァージ	シニア・ヘンダーソン著:湯槙ます・小玉香津 ヨ	` 訳:看護	の基本	となるもの,日本看	ı. 護協会出版会,	1995.
教 科 書	アイモジ	シン・キング著:杉森みど里訳:キング看護理詞	論,医学書[院, 1985.			
	秋 果 公 子	・他:看護過程を使ったヘンダーソン看護論の第	-践 第3	放, ヌー	·リェルヒロカリ,2	UU9.	
参考書	R. アルフ	'アロ・ルフィーヴァ著:江本愛子監訳:基本だ	ゝら学ぶ看	護過程	と看護診断 第6版	页, 医学書院, 20	008.
参考文献等					/ 10		
備考	特になし	,					

								看	護学部
科目区分	専門教	育科目 専門科目 看護専門職の役	割と機	鮱能			聴	講	否
授業科目名	看護技	術学各論VI(実習)					科	目履修	否
科目番号	N 1 1	0 0 8	クラ	ラス番	子号	N1			
授業形式	実習		必修	選択	区分	必修			
開講時期	2年次	後期セメスター	単		位	2 単位 9	90 時	間	
科目責任者	山下暢		そ	<i>(</i>)	他				
	【第1	クール】肥後、土井、高橋、保坂、田渕	小服部	、大川	、佐藤	· 长、岩波、山	下		
担当教員	【第2	クール】肥後、土井、高橋、保坂、田渓	1、服部	、大川	、佐藤	· · · · · · · · · · · · · ·	下		
		こ入院し生活している 1 名の対象を受り						定、計画立	案、実
		面の一連の過程を経験する。また、特に							
授業の概要	通して、	看護技術を個別化することの実際と意	義を学	習する	。さ	らに、看護の	り目標	を達成し、	対象の
	健康狀態	態の維持・向上を図るためには、科学的	根拠に	基づく	実践	が重要であり	り、看	護学がこれ	を支え
	る基盤に	こなっていることを理解する。							
	目的:	看護技術学概論から各論を通して学習し	た内容	を統合	するだ	ために、現実	の環	竟において生	生活す
	7	る対象に看護過程を展開する。この過程	を通し	て科学	的根	拠に基づくネ	看護を	対象の個別	性に応
	Ì	じて実践する意義を認める。							
学科目的	目標:	1. クライエント1名を対象としてアセス					の明確	化、看護目	標の説
学科目標		定、計画立案、実施、評価という一連							
		2.1. を達成する過程に基づき、看護理語							-
		3.1.2. を達成する過程を通して、看護期					科学的	」根拠と高い	倫理
		観に基づき看護実践を展開する責任が	ぶあるこ	.とを確			(1)(ı	
	口	授業内容	授業	方法	事	前·事後学習	(学	担当	í
		H-177 1 11		24		習課題)	<u> </u>	i 7 /	n le
	1, 2	実習オリエンテーション	講	義		「々、 ①学習 「た思山ナス		山下、住	
	3, 4	グループ別オリエンテーション	演	習		t を提出する も、できるだ		【第1クー	-
						く 女員のコメ		肥後、土井	
						ス貝のコグ 己載した①:		保坂、田渕	
						ロ戦 したい 国用紙の返:		大川、佐藤 山下	、石波
	5-43	フィールドにおける実習	実	習	受け		-1· C	Ш Г,	
	5-45	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	天	白		習終了後、	①学	【第2ク-	ール】
						十画用紙、②		肥後、土井	_
					記錄	禄、③レポー	トを	保坂、田渕	
					作成	えし、担当教	員へ	大川、佐藤	
授業の内容と方法	44, 45	統合カンファレンス	演	習	提出	ける。		山下	, ,_,,
	11, 10		124						
	7 ++n 88	• * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	п /п	\ L.		1 00 H (A) <u> </u>	4L VL 10 E	2 × ++ 55
	【期間	- '''							
	▼ 1.8 = c	第2クール 平成25年2月25			りるを	1 8 日(金) 子	土約 40 名 <i>7</i>	か美質
	【場所	】 第1クール 前橋赤十字病院				ملدا			
		群馬県立心臓血管	-		4 病	馃			
	7 ******	第2クール 前橋赤十字病院				0 2		E 3315: 11	,
		教員】 両クールともに、学生4 だ	1155	名のク	ルー	ブを形成し	/、教	[負が担当で	する。
	【内容	・方法】			_				
		病院に入院し生活している 1					メント	から看護	目標の
		設定、計画立案、実施、評価の	一連の	り過程	を経り	験する。			
評 価 方 法	行動目	標の達成状況 100%							
教 科 書									
参考書	看護技	術学概論、各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・V	の配布	資料					
参考文献等			•	•					
3 2 2 100 14	1月中	に事前のオリエンテーションを行う	0						
備考		して、看護技術学概論および看護技	•	h論 I	• п	・∭の単位>	を取る	まし、かつ	看護
FIIN FIIN		各論IV・Vの単位取得の見込みがあ						, U , 14 D	口以
	文州子	TIMIV VV中世界所以兄心かかの	(a) _ C	. 12 /121	少∨ノラ	ト什てしよ	ブ o		

看護学部

						計護字部	
科目区分	専門教	育科目 専門科目 看護の本質と看護	技術		聴	i講	可
授業科目名	看護倫	理学			科	日履修	可
科目番号	N 1 1	0 0 9	カラス番号	号 N 1			1
授業形式	講義	坟	公修選択区	分 必修	<u> </u>		
開講時期	3年次	前期セメスター	单 化	立 1 単	单位 15 時	:間	
科目責任者	肥後す			池	•		
担当教員	肥後す			_			
授業の概要		職者に必要な倫理の知識を学び、倫理的 態度の基礎を学習する。また、実践看記 する。					
学科目的学科目標		的:生命倫理に関する基礎的理解に基本 遵守の重要性を理解する。 標:1.看護実践において看護師が遭遇 2.看護実践における倫理原則の類 3.看護師の倫理的責任を理解する 4.アドボケーターとしての看護師 5.看護師として倫理的な行動をあ	遇する倫理 特徴を理解 る。 師の役割を:	的問題を する。 理解する	ご理解する。		徴とその
	□	授業内容		授業 方法	事前・事 (学習記		担当
	1	看護実践において遭遇する倫理的問題	(Auth				
	2	看護者の倫理綱領					
授業の内容と方法	3	看護実践における倫理原則					
2010 11 12 200 12	4	看護師の倫理的責任と看護行為		講義	適宜指示		肥後
	5	患者の権利と自己決定		HT 4X	通五1671		111100
	6	アドボカシ―					
	7	患者の権利と自己決定を支援する他職 協働	繊種との				
評 価 方 法	出席状	況(30%)、レポート(70%)					
教 科 書	日本看記	護協会監修:新版・看護者の基本的責務, 目	日本看護協会	:出版会,	2011.		
参考書 参考文献等	小西恵美	長子:看護倫理,南江堂,2010.					
備考	特にな	L					

							看護学部
科目区分	専門教	数育科目 専門科目 看護の本質と看護	技術			聴講	可
授業科目名		计象擁護論				科目履修	可
科目番号			クラス番号				
授業形式	講義		必修選択区分				
開講時期			<u> </u>	立 1 単	位 15	時間	
科目責任者	肥後。	7 4	その作	也			
担当教員	肥後。	ト み 子					
授業の概要	に関れびその	護職者として倫理的な判断をするための つる様々な事例を検討し、すべての看護 の重要性を学ぶ。看護の質を保証するだ 対象の人権擁護における看護職の役割を	職者に共通っ こめに看護実	する役害	として	の対象擁護の	の本質及
学科目的学科目標	目標: 1. 文 2. 文 3. 图 4. 文	: 看護の質を保証するために看護実践に 護における看護職の役割を理解する : 対象の人権が確立されつつある現在まで 対象の人権擁護に関係する法律および倫 医療・看護の現場において対象の人権が 対象の人権を擁護するために看護職者と 対象を擁護することの重要性を理解する	の歴史的過程 理宣言を理解 どのように係 してどのよ	程を理解 解する 曼害され	する る恐れ	があるのか	理解する
	□	授業内容		授業 方法		·事後学習 習課題)	担当
授業の内容と方法	1 ~ 7	学科目標の達成に向け、次のようなグラクを行う。 ・ 実習中、学生が遭遇した倫理的問題といれる事例を取り上げ、問題をある。 ・ 文献から医療・看護の現場におけるの事例を分析する。 ・ 看護職者がアドボケイトとしてのたすための方法を検討する	題を含むと と明確化す る人権侵害	講義習	適	宜指示	肥後
評価 方法	授業⁄	〜の出席状況・積極性(30%)、レポート 	、(70%)など	により	総合的は	に評価する。	
教 科 書参 考 書	なし						
参考 書 参考文献等 備 考	授業は特にな	こおいて提示する。 よし					
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •							

					看護学
科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	可
授業科目名	生涯発達看護学概論			科目履修	可
科目番号	N 1 2 0 0 1	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期			2 単	位 30 時間	
科目責任者	行田智子	そ の 伯	<u>h</u>		
担当教員	行田智子、横山京子、田村文子、中西陽子、小川				
授業の概要	「人間の発達と健康」を通して学習した人間の び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に 死に至るまでの身体・心理・社会的変化である。 潜在的・顕在的な健康上の問題およびその解決し ついて学習する。	関する学習を 生涯発達の特	前提とす	ける。人間が受胎から え、その生涯発達に	っ誕生し こおける
学科目的学科目標	目的:対象の発達上の特徴を踏まえて看護を展 目標1.生涯発達看護学の特徴と理念を理解す 2.各期における看護の対象および看護の 3.各期に生じやすい健康問題が対象とそ 4.各期における人間の発達と健康の特徴で する。 5.各期における看護職者の役割を理解す	る。 目標を理解す の家族に及ぼ を踏まえて個	⁻ る。 『す影響》 別的に看	を理解する。 護を展開する必要性	生を理解
	回 授業内容		授業 方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当
	生涯発達看護学の観点、生涯発達看護学の		講義		行田
	発達看護字の対象・看護の目標・看護職者				
	2 母胎期にある胎児と胎児の発達に影響する	る母胎の健康			
	問題	- B/48F	<u> </u>		
	3 母胎期にある対象の健康問題による家族へ	N/D影響			
	4 母胎期の対象にかかわる看護職者の役割				
	5 乳幼児期・学童期にある対象の健康問題と 症状・反応	とそれに伴う			横山
	6 乳幼児期・学童期にある対象の健康問題に の影響	こよる家族へ		各期の「人間の発	
	7 乳幼児期・学童期にある対象にかかわる利割	香護職者の役		達と健康」の内容 を復習しておく	
授業の内容と方法	8 思春期・青年期にある健康問題とそれに保 応、健康問題による家族への影響	半う症状・反		2 kg 0 (40 (田村
	9 思春期・青年期にある対象にかかわる看護	護職者の役割			
	10 成人期にある対象の健康問題とそれに伴う	症状・反応			中西
	11 成人期にある対象の健康問題による家族へ	の影響			
	12 成人期にある対象にかかわる看護職者の役	 と 割			
	13 老年期にある対象の健康問題とそれに伴う 健康問題による家族への影響	症状・反応、			小川
	14 老年期にある対象の看護職者の役割		1		
	14 - 1777 - 1777 - 1777	ıſ	₹ ≠	グループディス	行 四
	各期における看護の特徴と看護職者の役割 (グループディスカッション後、発表) 15	IJ	発表 ・ 討議	カッション内容 のレポートを提 出	行田
評 価 方 法	出席状況及びレポート 10%、講義終了後のテス	ト 90%による	総合評価	1	l
教 科 書	授業中に資料を配付する。				
参 考 書 参考文献等	授業中に提示する。				
備考					

					看護学
科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護			聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論 I (母胎期)			科目履修	否
科目番号	N 1 2 0 0 2	クラス番号	N 1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期セメスター	単 位	2 単位 60	時間	
科目責任者	行田智子	その他			
担当教員		子、橋爪由紀子	I		
授業の概要	「人間の発達と健康各論 I」において学習した母用健康状態とその回復過程に関する理解を前提とするた人間(妊産婦)の潜在・顕在する健康上の問題を「な発達を支援する方法を家族への支援も含め学習すめに研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を	。受胎から誕生に 回避し、妊娠・出 る。また、この過	至る人間(胎 産並びに新生	児) とこれを体下 児期における母-	内に宿し 子の健全
学 科 目 的 学 科 目 標	目的: 母胎期(妊娠・分娩・産褥・新生児)にある。 じた看護を展開する方法を学習する。 目標: 1. 母胎期にある対象の潜在・顕在する健康 2. 母胎期にある対象の状態に応じた看護を 3. 看護およびアセスメントに必要な母胎期 4. 事例のアセスメントに基づき、対象の個	状態をアセスメン 理解する。 の看護技術を習得	トする。 する。		別性に応
	回 授業内容			前·事後学習	担当
,		- N == 4- 15-40-15		(学習課題)	
	妊娠期にある対象への看護①:妊婦の観察に 集の方法	「必要な情報収	講義 •		行田
	2 妊娠期にある対象への看護②:妊娠期の基本 保健指導・相談に必要な知識、妊娠期の異常	HJ TIL C THECK	演習		行田
	3 妊娠期にある対象への看護③:妊娠期の心理 出産育児行動	・社会的行動、			行田
	4 分娩期にある対象への看護①:分娩期の基礎における分娩への準備、	を知識と妊娠期			
	5 分娩期にある対象への看護②:分娩期の観察	視点と看護	<i>A</i> =	コンマリロンナート・フィ	河内
	6 分娩期にある対象への看護③:分娩期の異常 母胎期の安全管理		間の	回に関連する人)発達と健康各	行田
	7 産褥期にある対象への看護①:産褥期の観察	組占と手雑		(母胎期)の	河内
	産褥期にある対象への看護②:母乳育児と看		知語	哉を復習してお .	菱谷
授業の内容と方法	8 産褥期にある対象への看護③:産褥期の異常	·		くこと	河内
	9 新生児期にある対象への看護①:新生児の観				堀込
	新生児期にある対象への看護②:新生児に起				河内
	10 常と看護 母胎期に起こりやすい精神疾患の看護				田村
	看護過程の展開①:				行田・
	ウエルネス診断とは、 11 妊娠期~産褥期及び新生児のアセスメント視	点			河内
	演習のオリエンテーション 12 看護過程の展開②:事例の展開		友当	* 美吐の次料な	마 AH AD
ŀ	12 看護過程の展開②: 事例の展開 看護過程の展開及び技術演習			構義時の資料及 質習オリエンテ	母胎期 教員
	13 技術演習 ①沐浴 ②レオポルド診断法と ③子宮底長(妊婦・褥婦)・腹囲の測定	胎児心音聴取	<u></u> \$	ノョンの内容を 売しておくこと	
	14 "				
	15 看護過程の発表				
	出席状況5%、授業及び演習中の態度5%、課題レ	ポート 10%、ミニ	 ニテスト及びii	 講義終了後のテス	· ト 80%
評 価 方 法	による総合評価	, • •	. ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		, ,
教 科 書	系統看護学講座専門 24 母性看護学 [1] 母性看護 系統看護学講座専門 25 母性看護学 [2] 母性看護 ウエルネスからみた母性看護過程 医学書院		_		
参 考 書参 考 文献等	ウエルネス看護診断に基づく 母性看護過程 第2 看護データブック 第4版 医学書院、女性生涯発 最新産科学(正常編・異常編)文光堂、 ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイク ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング 仁志田博司著 産科スタッフのための新生児学 メ	達看護学 真興交 ルとナーシング ヌーベルヒロカワ	ヌーベルヒロ	z カワ	
備考					

							看護学部
科目区分	専門教	て で育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護				聴講	否
授業科目名		達看護学各論 I (母胎期)				科目履修	否
			二刁亚口	NT 1		作日復修	首
科目番号			ラス番号	N 1			
授業形式	演習		逐選択区分	必修			
開講時期		: 後期セメスター 単	位	2 単位	60 時	間	
科目責任者	行田智	子	の他				
担当教員	行田智	· 子、田村文子、河内美江、堀込和代、菱谷純子、橋戸	1、由紀子				
E 7 10 E				* * * b + = * \U.	4ビ T7. ッド・	工造み、と 海照 1	ナカまり
		間の発達と健康各論I」において学習した母胎期にあ					
		・の回復過程に関する理解を前提とする。 受胎から誕生					
授業の概要	婦) の	潜在・顕在する健康上の問題を回避し、妊娠・出産並	母子の	建全な発達を支	:援する方		
	法を家	「族への支援も含め学習する。また、この過程を通し、タ	効果的な看護を	と展開する	ために	研究成果に基づ	づく知識・
	技術を	活用する意義を理解する。					
	目的·	母胎期(妊娠・分娩・産褥・新生児)にある対象とる	の家族か健全	か発達す	揺に向	けて 個別性に	広じた看
		護を展開する方法を学習する。		. 00/02/2/2	200-1-3	·/ (,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
24 A) D 44	n 1==		269711-	トッ			
学 科 目 的	日標:	1. 母胎期にある対象の潜在・顕在する健康状態を		たる。			
学科目標		2. 母胎期にある対象の状態に応じた看護を理解する	-				
		3. 看護およびアセスメントに必要な母胎期の看護技	支術を習得する	5。			
		4. 事例のアセスメントに基づき、対象の個別性に応	なじた看護過程	星の展開力	法を学	習する。	
				授業	車計	j·事後学習	
ı	口	授業内容					担当
,				方法	(-	学習課題)	<u> </u>
	_	妊娠期にある対象への看護①:妊婦の観察に必要	要な情報収	講義			行田
	1	集の方法					
		214					
	2	妊娠期にある対象への看護②:妊娠期の基本的生			行田		
	2	保健指導・相談に必要な知識、妊娠期の異常に対					
		妊娠期にある対象への看護③:妊娠期の心理・社				行田	
	3		7711131				11 111
		出産育児行動					
	4	分娩期にある対象への看護①:分娩期の基礎知識	識と妊娠期				行田
	4	における分娩への準備、					橋爪
	5	分娩期にある対象への看護②:分娩期の観察視点	し手雑				河内
	ο				各回り	こ関連する人	
	6	分娩期にある対象への看護③:分娩期の異常に対	する看護、		間の名	発達と健康各	行田
	U	母胎期の安全管理				(母胎期)の	
	7	産褥期にある対象への看護①:産褥期の観察視点	びと看誰				河内
	•		WC-FIX		知識	を復習してお	菱谷
授業の内容と方法	8	産褥期にある対象への看護②:母乳育児と看護				くこと	
		産褥期にある対象への看護③:産褥期の異常と看護					河内
	9	新生児期にある対象への看護①:新生児の観察視	見点と看護				堀込
		新生児期にある対象への看護②:新生児に起こ				河内	
						14111	
	10	常と看護					田村
		母胎期に起こりやすい精神疾患の看護					田小
		看護過程の展開①:					行田·
		ウエルネス診断とは、					河内
	11	妊娠期~産褥期及び新生児のアセスメント視点				441 L.J	
		演習のオリエンテーション		-			
	12	看護過程の展開②:事例の展開			各講	嚢時の資料及	母胎期
		看護過程の展開及び技術演習			び演習	望オリエンテ	教員
	13	技術演習 ①沐浴 ②レオポルド診断法と胎児	1心音聴取			ョンの内容を	
	10					しておくこと	
		③子宮底長(妊婦・褥婦)・腹囲の測定			烈武	してやくこと	
	14	II					
	15	看護過程の発表					
							<u> </u>
== / =	出席状	況5%、授業及び演習中の態度5%、課題レポート	10%、ミニテ	スト及び請	購義終了	了後のテスト 80	%による
評 価 方 法	総合評	価					
		護学講座専門 24 母性看護学「1〕母性看護学概論	医学書院				
*** *** *							
教 科 書		護学講座専門25 母性看護学[2]母性看護学各論	医子青阮				
		ネスからみた母性看護過程 医学書院					
	ウエル	ネス看護診断に基づく 母性看護過程 第2版 医	歯薬出版				
	看護ラ	・ータブック 第4版 医学書院、女性生涯発達看護	学 真興交易				
参 考 書		科学(正常編・異常編)文光堂、					
		2代子(エ市柵・共市柵)又几至、 ンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナー	ーミハノガーコー	_ ^ 1 . L -	+ H		
参考文献等				\/V E [ルソ		
		ンズヘルスナーシング 周産期ナーシング ヌーベバ					
	仁志田	博司著 産科スタッフのための新生児学 メディカ	出版				
備考							

					看護学部				
科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の生涯	発達と看護		聴講	否				
授業科目名	生涯発達看護学各論Ⅱ(乳幼児期・学童期)			科目履修	否				
科目番号	N 1 2 0 0 3	クラス番号	N 1						
授業形式	演習	必修選択区分	· 必修						
開講時期	2年次 後期セメスター	単位							
科目責任者	横山京子	その他		T 00 mil liti					
担当教員	横山京子 樋貝繁香 松井貴子 益子直紀	C 07 1E	1						
担ヨ教貝		、一类型1上型/	T1¤#a 2	当本地によっ 1 間の	て出た体				
	この授業は、「人間の発達と健康各論Ⅱ」においませた。とは、「人間の発達と健康各論Ⅱ」においませた。								
弦楽り質用	康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。乳幼児期・学童期になる。別様ないでは、日間の選集を表する。乳幼児期・学童期になる。別様ないでは、日間の選集を表する。乳幼児期・学童期								
授業の概要	にある人間の潜在・健在する健康上の問題を解決・回避し、健全な発達を支援するための方法を家族 への支援も今め党翌する。またこの過程を通し、効果的な季蓮を展開するために研究成果に其づく知								
	への支援も含め学習する。またこの過程を通し、効果的な看護を展開するために研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解する。								
	間・投州を石用する息義を理解する。 目的:乳幼児期・学童期にある対象の健全な発達	ま士ゼに白はて作	티딘((사는) > r	セドル毛珠 た 屈胆小・	z 士沙ナナ、				
	学習する。	主义抜に回り (個	到方り1生(こ)	むした有護を展開りで	の万伝を				
	チョッ 3。 目標: 1.子どもの入院生活と看護師の役割を	田船かる							
学科目的	2. 子どもとその家族への看護実践の基		仕作なる	1年よる					
学科目標	3. 子どもの発達段階および健康状態に								
子 付 日 际									
	4. 事例のアセスメントを通して、子どもを全人的に理解するための方法を理解する。								
	5.事例のアセスメントに基づき、個別性に応じた看護過程を展開する方法を理解する。6.乳幼児期・学童期の子どもの看護に関する文献を閲読し、文献活用の意義を理解する。								
		(男りる人脈を見)	売し、ス 授業方	事前・事後学習	900				
	回 授業内容		法	(学習課題)	担当				
	1 子どもと家族に関わる看護師の役割		講義	(1 日 1/1/05/	横山				
-	病院における子どもの安全保障 子どもの生活	行動と看護:遊							
	2 び・学習等	111,39,00 E.R.C.	講義		横山				
	健康状態を査定するための方法①発達アセスメ	ント・フィジカ	講義	別途、課題提示する	樋貝				
	3 ルアセスメント・家族アセスメント								
	4 症状を緩和するための方法①主な症状の観察。	と看護	講義		樋貝				
	5 健康状態を査定するための方法②発達段階に合		演習	ワークシート提出	全員				
	6 健康状態を査定するための方法③バイタルサイ		演習講義	ワークシート提出	全員 樋貝				
-		症状を緩和するための方法②主な症状の観察と看護							
-	8 急性期の子どもと家族への看護	・人よりより本件	講義	四次 細胞担ニよっ	樋貝				
-	9 治療・処置を受ける子どもの看護①発達段階に 10 治療・処置を受ける子どもの看護②固定・抑制		講義	別途、課題提示する	樋貝 樋貝				
-	11 治療・処置を受ける子どもの看護③輸液・注射		演習	ワークシート提出	全員				
-	12 治療・処置を受ける子どもの看護④固定法	1114	演習	ワークシート提出	全員				
-	13 治療・処置を受ける子どもの看護⑤プレパレー	-ション	講義	<i>→ → → → → → → → → →</i>	<u> </u>				
授業の内容と方法	14 治療・処置を受ける子どもの看護⑥プレパレー		演習	ワークシート提出	全員				
-	15 周手術期の子どもと家族への看護		講義		樋貝				
	16 染色体異常のある子どもと家族の看護		講義		樋貝				
-	17 慢性期の子どもと家族への看護:セルフケア行	動の獲得への援助	講義		横山				
	18 身体に障害のある子どもと家族への看護		講義		横山				
	19 低出生体重児と家族への看護		講義		樋貝				
	20 子ども虐待・心の問題を持つ子どもと家族への		講義		樋貝				
_	21 施設から在宅移行における他職種・他機関との		講義		樋貝				
	22 健康上の問題を持つ子どもの看護過程①アセン		演習		横山				
_	23 健康上の問題を持つ子どもの看護過程②アセス		演習	事例アセスメント	横山				
	24 健康上の問題を持つ子どもの看護過程③アセン		演習		横山				
-	25 健康上の問題を持つ子どもの看護過程④ケアブ 26 健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑤ケアブ		演習 演習	12月に資料配布	横山横山				
-	26 健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑤ケアブ 27 健康上の問題を持つ子どもの看護過程⑥実技演		演習 演習	2月初旬にアセスメ	全員				
}	28 健康上の問題を持つ子どもの看護過程の成果発			ントシート提出	全員				
-	29 健康上の問題を持つ子どもの看護過程®まとめ		演習		全員				
-	30 子どもと家族への看護の特徴・看護師の役割		講義		横山				
			h12.4X	I	I IAH				
並 年 ナ ナ	課題 20% 講義終了後の筆記試験 80%								
評 価 方 法		小児臨床看護学総	総論 医学	 上 に に に に に に に に に に に に に					
	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論	36 P 37 + P 2							
	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各								
	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各病と共に生きる子どもの看護:及川郁子監修 メヂカ	ルフレンド社							
教 科 書 参 考 書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各病と共に生きる子どもの看護:及川郁子監修 メヂカス発達に障害のある子どもの看護:及川郁子監修 メヂ	ルフレンド社 カルフレンド社							
教 科 書	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学②小児臨床看護各病と共に生きる子どもの看護:及川郁子監修 メヂカ	ルフレンド社 カルフレンド社 レンド社	ディカ出	版					
教 科 書 参 考 書	系統看護学講座 専門Ⅲ 小児看護学②小児臨床看護各病と共に生きる子どもの看護:及川郁子監修 メヂカス発達に障害のある子どもの看護:及川郁子監修 メヂカンア後不良な子どもの看護:及川郁子監修 メヂカルフ	ルフレンド社 カルフレンド社 レンド社 グラフィカ 29 メ	ディカ出, その他	版					

科 目 区 分授業科目名	専門	教育科目 専門科目	·		T04-	- 11	
授業科目名					聴		否
		発達看護学各論Ⅲ(思春期・青年期)		科	目履修	否	
	号 N12004 クラス番号 N1						
授業形式	演習		必修選択区分	必修			
開講時期	3年	次 前期セメスター	単 位	2 単位	60 時間		
科目責任者	田村		<u>そ</u> の他				
担当教員		文子、関根 正、酒井美子、中野あずさ、横山京子、	. 10				
授業の概要	常るをめ	の授業は、「人間の発達と健康各論Ⅲ」において学習しら逸脱した健康状態とその回復過程に関する理解を前 康上の問題に関し、特に生じやすい精神的側面の健康 援するための方法を家族への支援も含め学習する。ま 研究成果に基づく知識・技術を活用する意義を理解す	た思春期・青年期に 提とする。思春期・ 問題に焦点を当て、 た、この過程を通し る。	青年期に これを かく これを りる	こある人 解決・回 効果的な	、間の潜在・]避し、健全 :看護を展開	顕在す な発達 するた
学科目的学科目	目標	: 思春期・青年期にある対象の健全な発達支援に向け 1. 思春期・青年期にある対象の潜在・顕在する健康 2. 健康問題の解決・回避に向けた個別的な看護実践	問題をアセスメント の過程展開を理解す	する。 る。	時開する	方法を子省、	する。
(評価基準)		3. 健康問題を解決・回避するために必要な技術を対 4. 思春期・青年期にある対象の特性に応じて看護実			5.		
	口	授業内容			授業 方法	事前·事後 学習 (学習課 題)	担当
	1	思春期・青年期にある人とその家族に関わる看護師の					田村
	2	精神的健康問題をもつ人との関係形成をするための野	理論:人間関係論		講義		田村
	3	精神的健康問題をもつ人との関係形成をするための打			•		田村
	4	精神的健康問題をもつ人を支援するための看護理論			演習		田村
	5	精神的健康問題をもつ人を支援するための看護理論					田村
	6	精神的健康問題をもつ人への看護援助①:セルフケアレベル					田村
		精神的健康問題をもつ人への看護援助②:①観察と組		②症性			田村
	7	アセスメント (幻覚・妄想、興奮、拒絶)					
	8	精神的健康問題をもつ人への看護援助③:症状アセスメン 迷、自殺・自傷行為)	小(意欲低ト、抑う	つ、昏			田村
	9	精神的健康問題をもつ人への看護援助④:症状アセスメン	小(不安、不眠、脅	迫)			田村
	10	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑤:症状アセスメン	小 (躁状態・攻撃的	状態)			田村
	10						- 13
	11	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑥:症状アセスメン害)	離性障		・「人間 の発達	田村	
	12	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑧:統合失調が消耗期、回復期)		と健康」 各論Ⅲ	田村		
極楽の出会し土井	13	精神的健康問題をもつ人への看護援助⑨:家族支援	(訪問看護)			の復習	田村
授業の内容と方法	14	治療・検査をうける人の看護①:各種テスト、精神を		・セルフ	田村		
		治療・検査をうける人の看護②:身体療法(薬物療法		ケア理論につ	田村		
	16	治療・検査をうける人の看護③:社会療法(生活指達と)				い て の 復習 ・演習終	田村
	17	小児期からの健康問題をかかえる人への看護援助::	キャリーオーバー			了後レ	横山
	18	青年期の身体的な健康問題をかかえる人への看護援	助⑩:肥満			ポート	中西
		精神的健康問題をもつ人への看護過程の展開「演習オ	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				田村
	19		/ J				
	20	精神的健康問題をもつ人への看護過程の展開[演習]					酒井
	~	20~21: ①②					田村
	25	22~23: 34					関根
	20	$24 \sim 25 : 56$			<u></u>		中野
	26	精神看護の変遷とリハビリテーション			-		田村
		精神的健康問題をもつ人と家族を支える法的基盤①	· 特抽促健垣址法				田村
	27	精神的健康問題をもつ人と家族を支える法的基盤①		とサー	講義		田村
	28	ビス提供体制 精神科におけるリスクマネシ、メント(転倒、身体拘束、自殺、			叶秋		田村
	30	リエゾン精神看護師の役割			田村		
評価方法		(看護課程演習)の出席状況・レポート(10%)、講 状況、授業態度は減点の対象とする。	義終了後のテスト	(90%)	により糸	総合的に評価	でする。 でする。
教科書		美恵子編著:精神看護学 学生-患者のストーリーで網	図る実習展開. 医歯	薬出版.	最新版		
参考		ダ J. カルペニート著, 新道幸恵監訳:看護診断ハ				006.	
m E		ク J. ガルベー 「省,利度辛心血い・省 最ら別へ ル W. スチュアート他著,神郡 博監訳:精神看護					
参考文献			1 1 7 70 1 0 1 72 711; 2	- 1 HDE,	-12/11/10	•	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		真美:精神看護実習ガイド,照林社,2007	1 VAN O V ACMI, E	. 1 = 170,	-12/1/10/		

					看	護学部	
科目区分	専門教	育科目 専門科目 人間の生涯発達と利	 		聴講	否	
授業科目名	生涯発	達看護学各論IV(成人期)			科目履修	否	
科目番号	N 1 2	005	ラス番号	N 1			
授業形式	演習	必	修選択区分	必修			
開講時期	3年次	前期セメスター 単	位	2 単位 6	0 時間		
科目責任者	中西陽	子	の他				
担当教員	生涯発	達看護学(成人期)全教員	<u> </u>				
	この	授業は、「人間の発達と健康」各論IVに	おいて学習	した成人期	にある人間の〕	E常な	
		態及び正常から逸脱した健康状態とその					
授業の概要	時期の	人間の潜在・顕在する健康上の問題を角	解決・回避し	ノ、健全な発	達を支援する方	ための	
		学習する。また、この過程を通し効果的	-				
	知識・	技術を活用する意義を理解する。					
	目的:	成人期にある対象の健全な発達支援に向	句けて、個別	性に応じた	看護を展開する	る方法	
	を学習	する。					
24 T) F 44	目標 1	. 成人期にある対象の潜在・顕在する健	康問題をア	セスメント	する。		
学科目的	2	. 健康問題の解決・回避に向けた個別的	な看護実践	の方法を理解	解する。		
学科目標	3	. 健康問題を解決・回避するために必要	要な看護を、	成人の対象	に応じて展開~	する方	
		法を理解する。					
	4	. 成人期にある対象の特性に応じて看護	実践を個別	化する意義	を認める。		
	日	授業内容		授業	事前·事後学	担当	
		23,1		方法	習(学習課題)	, ,	
	$1 \sim 2$	学科目ガイダンス 成人期にある対象の健康問題を理解する必要性	レその方法・看	講義・ 護診 演習	必要に応じて 課題を提示す	中西廣瀬	
	1 2	断と看護過程	IX I	る。	JE VIR		
		消化・吸収障害のある対象への看護 1)~4)				青山	
	$3 \sim 6$	1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護 障害の代表的疾患とその看護 4)手術を受ける					
		呼音の代表的疾患とその有護 47子例を支げる。 呼吸機能障害のある対象への看護 1)~3)	八州 出石 ツィ	目 受		小林	
	$7 \sim 9$	1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護	3) 呼吸機能障	害の			
		代表的疾患とその看護				+=	
	10~12	肝機能障害のある対象への看護 1)~3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護	3) 肝機能障害	の代		中西	
		表的疾患とその看護					
	13~15	代謝機能障害のある対象への看護 1)~3) 1)症状アセスメント 2)検査・治療とその看護	0) (小型++	生の		廣瀬	
授業の内容と方法	15.019	17症状/ ピスクント 27候重・石原とその看護 代表的疾患とその看護	3/1人附/戏形/毕	.古(7)			
20,10 11 11 2 30 121		代謝機能障害のある対象への看護 4)			廣濱		
	16	演習①食品交換表を使用した献立作成 演習②自己血糖測定				中西	
		生殖機能障害のある対象への看護 1)				橋本	
	17	1)症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害	手の代表的疾患	とそ		113	
		の看護				.1 44	
	18	生殖機能障害のある対象への看護 2) 1)症状アセスメント、検査・治療、生殖機能障害	その代表的疾患	トマ		小林	
	10	の看護					
	10 00	膵機能障害のある対象への看護 1)~2)		/L=		中西	
	19~20	1)症状アセスメント、検査・治療とその看護 2 的疾患とその看護)	1代衣			
		循環器障害のある対象への看護 1)~2)		講義		廣瀬	
	21~22	1)症状アセスメント、検査・治療とその看護 2)循環器機能障				
	00	代表的疾患とその看護 試験		試験		中西	
	23	健康問題を持つ成人期にある対象への看護過程	の展開①~②	講義・	必要な資料収	成人	
	24~31	「成人期事例による看護過程の展開]	v/成別①~@	神我・演習	集の課題を毎	期全	
		①演習オリエンテーション ②~⑧事例展開演	習	- '-	回提示する。	教員	
評 価 方 法	出席状況	R (10%)、演習の参加状況・レポート (20%)、詞	構義終了後のテ	スト (70%) ほ	こより総合的に評価	まする。	
教 科 書	リンダ」	.カルペニート=モイエ,新道幸恵監訳:看護診	断ハンドブック	ク第9版,医学	書院		
4 4 4		1:系統看護学講座 専門Ⅱ成人看護学[5]消仙	,				
参考文献等		·他:系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[6] ·郎他:系統看護学講座 専門ⅡⅡ成人看護学[2					
2 2 11h 11		寒美他:成人看護学(第2版)周手術期看護論,多					
		病学会編:糖尿病食事療法のための食品交換表		堂			
備考	上記の参	・考書は生涯発達看護学各論VI(実習)でも活用し	ンます。 				

				看護学
科目区分	専門教育科目 専門科目 人間の生涯発達と看護		聴講	否
授業科目名	生涯発達看護学各論 V (老年期)	H [科目履修	否
科 目 番 号 授 業 形 式	N12006 クラス番 演習 必修選択区分			
開講時期	現首 ・	位 2単位 6	30 時間	
科目責任者	小川妙子 その	他	00 w/1 [8]	
担当教員	生涯発達看護学(老年期)全教員、中野あずさ	· •		
授業の概要 学科目的	この授業は、「人間の発達と健康各論V」において学習した老年期にあした健康状態とその回復過程に関する理解を前提とする。老年期にある回避し、健全な発達を支援するための方法を家族への支援を含め学習すを展開するため研究成果に基づく知識・技術を活用することの重要性を目的:老年期にある対象の健全な発達支援に向け、個別性に応じた看護	人間の潜在・顕在 る。また、この 学習する。 を展開する方法	Eする健康上の問題 過程を通し、効果的	を解決・
学科目標 (評価基準)	目標1. 老年期の人の健康問題のアセスメントに必要な知識・技術を理 2. 老年期の人の健康問題の解決・緩和・回避にむけた支援方法を 3. 老年期の人の健康問題を解決・緩和・回避するために必要な看 4. 老年期の事例を通して特性に応じた個別的な看護過程の必要性	·理解する。 ・護技術を実施す	る。	
	回 授業内容	授業方法	事前·事後学習(学 習課題)	担当
	1 高齢者のフィジカルアセスメント技術	講義		小川
	2 コミュニケーション障害のアセスメント - 難聴/視力/言語障害の観察と理解	講義	人間の発達と健康各 論(老年期):感覚・ 知覚の変化の復習	小川
	3 コミュニケーション障害への支援 - 障害に応じた援助 (演習 A:ロールプレイ)	演習	事前課題:学生のコミ ュニケーション体験	全教員
	4 治療を必要とする高齢者の看護 1) 一検査、治療における援助(抑うつ)	講義		中野
-	5 治療を必要とする高齢者の看護 2) -薬物療法の特徴と看護	講義		狩野
	6 治療を必要とする高齢者の看護 3) 一検査、治療を受ける高齢者・家族への援	助講義		樋口
	7 治療を必要とする高齢者の看護 4) - 感染のリスクと管理	講義		狩野
	8 排泄障害のある高齢者のアセスメント - 失禁/尿閉/下痢/便秘	講義	人間の発達と健康各 論(老年期):排泄機 能の変化の復習	小川
	9 排泄障害のある高齢者の自立に向けた支援 –排尿誘導、排泄用具の活用	講義		小川
	10 嚥下障害のある高齢者のアセスメント	講義		小川
	11 嚥下障害のある高齢者への食事支援 (演習 B:嚥下体操/とろみ食試食)	演習	事後課題:嚥下体験 用紙提出	全教員
	12 嚥下障害のある高齢者の食事支援 - 食事介助方法と口腔ケア・胃ろう管理	講義		小川
授業の内容と	13 老年期特有の症状を持つ高齢者への支援 *中間試験	講義		小川
方法	14 認知症の高齢者と家族の理解1) -認知症に関する基本知識	講義		狩野
	15 認知症の高齢者と家族の理解2) -認知症によってもたらされる生活上の困難と	支援 講義		狩野
	16 認知症の高齢者と家族の理解3) -認知症高齢者を支える家族の理解と支援	講義		狩野
	17 治療を必要とする高齢者の看護 5) -手術を受ける高齢者のリスクと術後管理(針の選択、せん妄、肺合併症)	治療方講義		狩野
	18 治療を必要とする高齢者の看護 6) -手術を受ける高齢者の看護 大腿骨頸部 概要と術後管理	骨折の講義		福島
	19 治療を必要とする高齢者の看護 7) -治療に伴う廃用症候群の予防と看護	講義		狩野
	20 治療を必要とする高齢者の看護 8) 一高齢者のリハビリテーションと看護	講義	看護技術学のボディ メカニクスを復習	狩野
	21 歩行・移動困難にある高齢者の看護 (演習 C:麻痺のある人の床上運動と移動) 演習		全教員
	22 歩行・移動困難にある高齢者の看護 (演習 C:麻痺のある人の床上運動と移動)	演習		全教員
	23 高齢者の社会資源活用と継続看護	講義		狩野
	24 意識障害のある高齢者のアセスメントとケア	講義		樋口
	25 治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索 (演習 D-1)	演習		全教員
	26 治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-2)	演習		全教員
	27 治療を受ける高齢者の看護過程(事例)展開と文献検索(演習 D-3)		25-30 回事後課題: 看護過程展開用紙、	全教員
	28 事例の看護過程発表・レポート作成 3 (演習 D-4)	演習	問題リストの個人課	全教員
	29 事例の看護過程発表・レポート作成 (演習 D-5)	演習	題提出	全教員
	30 事例の看護過程発表・レポート提出 (演習 D-6)	演習		全教員
評価方法	出席状況、講義終了後のテストによる総合評価	ı		<u> </u>
	系統看護学講座 専門Ⅲ 老年看護学 医学書院			
教 科 書	系統看護学講座 専門 21 老年看護 病態・疾患 医学書院			
参考 書参考文献等	野口美和子編:最新 高齢者看護プラクティス 疾患・障害をもつ高齢	者の看護、中央	法規	
備 考				

					看	護学部				
科目区分	専門	教育科目 専門科目 人間の生涯発達と	:看護		聴講	否				
授業科目名	生涯	発達看護学各論VI(実習)			科目履修	否				
科目番号		2007	クラス番号							
授業形式	実習		必修選択区							
開講時期		次後期								
科目責任者	横山		そのん	也						
担当教員		発達看護学全教員 まの実践環境に包む異さればら、RIW#	ふと北左押す	マクジキ印料	の用わり捨た	小块石				
授業の概要	を受 て、	実の実践環境に身を置きながら、母胎期 け持ち、その健康問題の解決・回避に向 対象の発達段階に対する理解を前提に個 に、チームの一員としての役割及び保修	け看護過程を 国別性に応じ	と展開する。また看護を展開す	た、この実践 トる方法を学習	を通し 引する。				
学科目的学科目標	目標 (1)発 (2)発 (2)発 (3)発	経達段階各期にある対象の発達課題と特 つる。 経達段階各期にある対象の顕在・潜在す スメントする。 経達段階各期にある対象の顕在・潜在す	、その解決・ 徴、対象を取 る健康問題を	・回避に向けて 対り巻く環境に ・身体・心理・	対象および環境 基づいて対象 社会的側面か	境と相 を理解 らアセ				
	(4)発 (5)保 (6)発	: 立案・実施・評価する。 経達段階各期にある対象への看護実践を 機健・医療・福祉における看護の役割・ 経達段階各期の対象への看護実践を通し とえ、その理解に基づき看護を実践する	機能を理解す て、看護の対	つる。 対象を生涯発達 と確認する。	し続ける存在	として				
	回	1クールの授業内容	授業方法	事前·事 (学習	課題)	担当				
	1	各期別オリエンテーション	実習	実習ガイド		各期 教員				
	2	各期別フィールドにおける実習(1)	実習		・生涯発達看護学概論・ 各論 I ~V の復習					
	3	各期別フィールドにおける実習(2)	実習	・各期の行動						
	4	各期別フィールドにおける実習 (3)	実習		フィールドの特徴に応じて、実習に必要な学習					
	5	各期別フィールドにおける実習(4)	実習	課題を提示						
	6	各期別フィールドにおける実習(5)	実習	• 各期終了後						
授業の内容と方法	7	各期別フィールドにおける実習 (6)	実習	・ 5 クール終 レポート	`] ′ 发					
27/12 11 H C/V IA	8	各期別フィールドにおける実習 (7)	実習							
	9	各期別フィールドにおける実習 (8)	実習							
	10	学内演習	演習							
	【期間】平成26年10月第1週(月)~平成27年1月第5週(金)2週間ずつ5クール 【場所】前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、県立小児医療センター、群馬大学医学部附属 病院、群馬中央総合病院、県立精神医療センター、医療法人赤城病院、地域活動 センターピアーズ 【教員】学生5名から6名の14グループを形成し、教員1名が担当する 【内容・方法】主として各期にある対象者1名を受け持ち看護過程の展開を行う *原則として、各期3分の2以上の出席が必要									
評価方法	各期	実習における行動目標の達成状況 90%	生涯発達看	護学統合レポー	ート 10%					
教 科 書	指定	なし								
参考書		発達看護学概論、生涯発達看護学各論	[~Vの配布 ³							
, , ,		他、別途提示する	нь п.	1 1						
備考	7月口	中に全体オリエンテーション予定、詳紹	は、実習要互	頁参照						
L										

科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康と看護		聴講	可				
授業科目名	地域健康看護学概論		科目履修	可				
科目番号	N13001 クラス番号 N							
授業形式	講義 必修選択区分 必修							
開講時期		単位 30	单位 30 時間					
科目責任者 担 当 教 員	齋藤 基 との他 齋藤 基、原美弥子、大澤真奈美							
授業の概要	地域健康看護学とは、地域に生活する個人、家族及び集団の健康生活を目指し、これらの対象が地域社会に生活する場の環境に着目し、家庭環境、保健・医療・福祉施設環境、学習環境、労働環境、包括的地域環境を活動領域として捉える。それぞれの環境の特徴との関連から健康問題を把握し、看護活動を展開するとともに、地域社会のシステム化により組織的に問題解決を目指す看護のあり方を追求する学問である。この授業においては、地域健康看護学領域における概念の基盤となる地域看護活動の目的、対象、方法及び活動領域における特徴について学習する。							
学科目的学科目標	持・増進に向けて展開する看護の意義を学習する。 目標 1. 地域における看護の基本理念を理解する。 2. 地域における看護と保健医療福祉行政との関連を理解する。 3. 地域における看護の対象及び活動領域を理解する。 4. 地域における看護活動の展開過程及び看護技術を理解する。	地域における看護の基本理念を理解する。 地域における看護と保健医療福祉行政との関連を理解する。 地域における看護の対象及び活動領域を理解する。 地域における看護活動の展開過程及び看護技術を理解する。 地域における看護活動の根拠となる法律及び活動の背景となる歴史を理解する。						
	回授業内容	授業 方法	事前·事後 学習(学習 課題)	担当				
	1 地域における看護の概念	講 義	毎回の授	齋藤				
	2 日本における公衆衛生看護の変遷		業終了時に課題を					
	3 地域における看護と保健医療福祉行政①		提示する。					
	4 地域における看護と保健医療福祉行政②							
	5 地域における看護の対象							
	6 地域における看護の活動領域							
授業の内容と方法	7 地域における看護の展開過程①			大澤				
	8 地域における看護の展開過程② (活用可能な理論)							
	9 地域における看護の展開過程③(地域診断のための情報収集)	演習	課題レポ	齋藤				
	10 地域における看護の展開過程④(地域診断のための情報収集)	1	ートを提 出する。	大澤				
	11 地域における看護活動の方法(保健指導・活用可能な理論)	講義	毎回の授	齋藤				
	12 地域における看護活動の技術① (家庭訪問)		業終了時に課題を	原				
	13 地域における看護活動の技術② (健康相談・健康診査)		提示する。	齋藤				
	14 地域における看護活動の技術③ (健康教育)							
	15 地域における看護に関わる法規	1						
評価方法	授業終了後の試験 (80%) 、課題レポート (20%)	1	I	1				
教 科 書	1) 奥山則子他編:標準保健師講座 1 地域看護学概論,医学書院 2) 中村裕美子他編:標準保健師講座 2 地域看護技術,医学書院							
参 考 書 参考文献等	1)厚生統計協会編:国民衛生の動向,厚生統計協会							
備考	演習以外の授業については聴講が可能である。							

						看護学部
科目区分		教育科目 専門科目 地域で生活する)	聴講	可		
授業科目名		健康看護学各論 I (家庭環境)			科目履修	可
科目番号		3 0 0 2	クラス番号	N 1		
授業形式開講時期	講義	欠 前期セメスター	必修選択区分	必修 2単		
科目責任者	飯田		単位その他	乙里	位 30 時間	
担当教員		田心 苗恵、原美弥子、鈴木美雪、塩ノ谷朱��				
授業の概要	解おこ育療防	庭環境において、様々な発達段階にあるや発生の回避に向けて看護活動を展開する看護活動は、家庭に生活の場を置く家を基本とする。家族は、家族員の日常生や介護、家族員の有病時のケアは生活のする人々とその家族を理解し、多職種とともに家族の発達課題を成し遂げられまる庭環境において、様々な発達段階にある	けるための知識 族を一つの単位 E活におけるへ 営みと共にある 協働する中で、 るように支援す	・技術 なとした る。この 健康問 る看護	・態度を学習する に捉えたアプローアケア機能を有っ で授業においては 題の解決や発生 活動を学習する	。地域に ・チを行う しており、 は、地域で の回避(予
学 科 目 的 学 科 目 標 (評価基準)		や発生の回避に向けて看護活動を展開す : 1. あらゆる健康レベルにある家族の日常生 増進のためのケア機能を理解する。 2. 家庭で生活する療養者・家族等を対象に る知識・技術・態度を理解する。	るための知識・ 活、及び家族を 工展開する在宅ケ	技術・創 一つの [〕] アにおり	態度を学習する。 単位とした家庭内の する看護活動の基本	の健康保持
	回	授業内容		授業 方法	事前・事後学 羽(学羽舞野)	担当
-	1	安房理体によりは7.毛港のより。		<i>万伝_</i> 講義	習(学習課題) 授業時に課題	飯田
	1	家庭環境における看護の歩み		n11.4%	を提示する。	原
	2	対象(療養者・家族・コミュニティ)	の理解			鈴木
	3	家庭環境における看護過程(1)				塩ノ谷
	4	社会資源と多職種連携				
	5	家庭環境での看護における安全性の確保				
	6	家庭環境における生活援助技術				
	7					
授業の内容と方法	8	家庭環境における医療処置管理(2)				
	9	家庭環境における看護の展開 (終末期療養者・家族)				
	10	家庭環境における看護の展開 (難病療養者・家族)				
	11	家庭環境における看護過程(2)		演習		
	12	在宅ケアと法制度(1)				
	13	在宅看護と法制度(2)		講義		
	14	家庭環境における看護過程(3)		 演習		
	15	療養者・家族の権利保障		講義		
評価 方法	出席	状況、課題レポート、講義終了後のテ			<u> </u>	l
教 科 書	木下	由美子編著:新版在宅看護論,医歯薬と	出版,2009			
参 考 書 参考文献等	授業	中に必要に応じて適宜提示する。				
備 考	特に	なし				

						看護字 尚					
科目区分		教育科目 専門科目 地域で生活する人		濩	聴講	可					
授業科目名		健康看護学各論Ⅱ(保健・医療・福祉施		T	科目履修	可					
科目番号			クラス番号	N 1							
授業形式	講義		必修選択区分	必修	00 114:88						
開講時期 科目責任者			<u>単位</u> その他	2 単位	30 时间						
担当教員		呉ホス 真奈美、飯田苗恵、鈴木美雪、塩ノ谷朱	, , , ,								
授業の概要	生家て用は、	疾患や障害などにより様々な健康問題を持つ対象は、保健・医療・福祉施設を利用し活している。これらを生活の場として位置づけ、これらの場を利用する人々及びその族に対して顕在・潜在する健康問題を査定し、その解決や発生の回避(予防)に向け看護活動を展開するための知識・技術・態度を学習する。保健医療福祉施設環境を利する対象は、家庭を生活の基盤としており、健康問題の発生・回避(予防)において、保健医療福祉施設環境と家庭環境の影響が大きい。この授業においては、これら両面から健康問題の特徴を理解し、問題を解決するための看護活動を学習する。									
学 科 目 的 学 科 目 標 (評価基準)	の施	から健康問題の特徴を理解し、問題を解決するための看護店動を学習する。 目的:様々な健康問題を持ち、保健・医療・福祉施設において生活または、これら設を利用する人々及びその家族に対する地域看護活動の実際を学習する。 目標:1. 心身障害児(者)支援における地域看護活動を理解する。 2. 精神保健福祉対策における地域看護活動を理解する。 3. 難病対策における地域看護活動を理解する。 4. 感染症対策における地域看護活動を理解する。 5. グループ組織化支援における地域看護活動を理解する。									
	旦	授業内容	授業力	→ Y.T.	が・事後学習 学習課題)	担当					
	1	心身障害児(者)支援と地域看護活動(1	.)								
	2	心身障害児(者)支援と地域看護活動(2	2)								
	3	心身障害児(者)支援と地域看護活動(3	·								
	4	精神保健福祉対策と地域看護活動(1)									
	5										
		精神保健福祉対策と地域看護活動(2)									
	6	精神保健福祉対策と地域看護活動(3)				1. \					
授業の内容と方法	7	難病対策と地域看護活動(1)		授当	き時に課題	大澤飯田					
	8	難病対策と地域看護活動(2)	講義		是示する	鈴木					
	9	難病対策と地域看護活動(3)				塩ノ谷					
	10	感染症対策と地域看護活動(1)									
	11	感染症対策と地域看護活動(2)									
	12	 感染症対策と地域看護活動(3)									
	13	グループ組織化支援と地域看護活動(1)								
		グループ組織化支援と地域看護活動(2									
	14										
	15	グループ組織化支援と地域看護活動(3									
評 価 方 法	筆記	試験(100%)									
	加 淮	保健師講座2 地域看護技術,医学書院									
教 科 書		保健師講座 3 対象別地域看護活動,医	学書院		標準保健即講座 3 対象別地域有護店動,医字書院 厚生統計協会編:「国民衛生の動向」最新版,厚生統計協会編:「国民福祉の動向」最新版 看護法令要覧 最新版,最新地域看護学各論 I (日本看護協会出版会)						
教 科 書 参 考 書 参 考 文 献 等	標準厚生	保健師講座3 対象別地域看護活動,医 統計協会編:「国民衛生の動向」最新版,	厚生統計協会			最新版					

科目区分	車門舞	教育科目 専門科目 地域で生活する。	人々の健康と	看 護		聴講	1 世子司			
授業科目名		数月付日 ・	い、小医塚色	日咬		科目履修	可可			
科目番号		3 0 0 4	クラス番号	号 N 1	=					
授業形式	講義		必修選択区分	分 必修	S					
開講時期		火 前期セメスター		立 2 単	位 30	時間				
科目責任者	齋藤		- ,	也	\ H- \ \					
担当教員	齋藤	基、横山京子、大澤真奈美、飯田苗戸 幼児期から思春期における発達段階に				2行ら担で	なる促呑			
授業の概要	園 対象は 護 が 基 想 を ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま	が開から応信場にありる元建校間に が推園、学校などの学習環境を対象の生 こ対して顕在・潜在する健康問題を査定 動を展開するための知識・技術・態度を 監としており、学習活動に関わる健康に 経環境の影響が大きい。この授業におい 問題を解決するための看護活動を学習・	活の場として とし、その解浴 学習する。当 問題の発生・『 いては、これら	て位置づ 央や発生 学習活動 回避(予	け、これ の回避 を行う? 防)にこ	ιらの場に (予防) に 対象は、家 おいては、	身を置く 向けて看 庭を生活 学習環境			
	目的	: 生涯学習の視点から学習環境を捉え、	そこで生活っ	よる対象	の健康	を保持・増	進するた			
学科目的学科目標	2. ½ 3. ½	めの看護活動を学習する。								
	口	授業内容		授業 方法	事前・ (学習記	事後学習 果題)	担当			
_	1	及びシステム				り授業終こ課題を	齋藤			
	2	乳幼児の健康と家庭生活			提示す	う 。				
	3	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動	1							
	4	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動				塩ノ谷				
	5	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動	3				大澤			
	6	児童・生徒の健康を支える看護活動①								
	7	児童・生徒の健康を支える看護活動②								
授業の内容と方法	8	児童・生徒の健康を支える看護活動① (学校保健)					齋藤			
	9	児童・生徒の健康を支える看護活動②	(学校保健)							
	10	児童・生徒の健康を支える看護活動③	. ,							
	11	児童・生徒の健康問題の特徴と看護活動					鈴木			
		乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動	_	演習	課題し	ノポート	塩ノ谷			
	12	(家庭訪問の実際)			を作成 する。	し、提出	鈴木 飯田			
	13	乳幼児の健康な成長発達を促す看護活動 (家庭訪問の実際)	4)				齋藤			
	14	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適 問題	応における	講義	特にな	: L.	横山			
	15	健康問題を持つ児童・生徒の学習環境適 けた看護活動の実際	応に向けた							
評価方法	授業網	終了後の試験(70%)、演習の出席及	び課題レポー	- ト (30	%)					
教 科 書	松田正	正巳他著:標準保健師講座3 対象別地	也域看護活動	,医学書	萨院					
参 考 書 参考文献等		朝子編:公衆衛生看護学大系③母子保 統計協会編:国民衛生の動向,厚生統								
備考	演習り		5 .							
	l									

						看護学部
科目区分		教育科目 専門科目 地域で生活する人々の	健康と看	蒦	聴講	可
授業科目名		健康看護学各論Ⅳ(労働環境)	~ T I	3.7.4	科目履修	可
科目番号授業形式	N I 講義		ス番号 選択区分	N 1 必修		
開講時期		次 前期セメスター 単	<u> </u>	2単	位 30 時間	
科目責任者		真奈美 そ	の他			
担当教員	大澤	真奈美、原美弥子、飯田苗恵、鈴木美雪、塩	ノ谷朱美			
授業の概要	生定を働の境	年期から老年期に及ぶ発達段階にある個人、ؤの場として位置づけ、これらの労働環境に身、その解決や発生の回避(予防)に向けて看記する。労働とは、生活手段や生産手段を作活を支援する看護職の役割は大きい。また、登盤としており、労働生活にかかわる健康問題よび家庭環境の影響が大きい。この授業にお解し、問題を解決するための看護活動を学習	を置く対 護活動を り出すた。 労働に従 の発生・ いては、こ	東の顕在 展開する の の の の 重要 の の で の の で の の で の の で の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	E・潜在する健康 るための知識・技 とな活動であり、 、々の多くは、家 予防)においては	問題を査をを変した。 人を生働で、 労働環
学科目的学科目標	目標 1. 2. 3.	:様々な環境下において労働する対象の健康 相互行為を展開するための知識・技術・態 労働衛生における地域看護活動を理解する。 事業場が行なう様々な労働衛生対策と看護職 成人保健対策における地域看護活動を理解す 高齢者保健福祉対策における地域看護活動を	度を学習・ の役割を る。	する。 理解す [。]		に集団と
-	□	授業内容		授業 方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当
	1	労働衛生対策と産業看護活動(1)		講義	授業時に課題を担こす	大澤
	2	労働衛生対策と産業看護活動(2)			題を提示する。	原 飯田
	3	労働衛生対策と産業看護活動(3)				鈴木
	4	労働衛生対策と産業看護活動(4)				塩ノ谷
	5	 労働衛生対策と産業看護活動(5)				
	6	事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役	'割(1)	演習		
	7	事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役				
授業の内容と方法	8	事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役				
		事業場が行なう労働衛生対策と看護職の役				
	9			講義		
	10	成人保健対策と地域看護活動(1)		冊按		
	11	成人保健対策と地域看護活動(2)				
	12	成人保健対策と地域看護活動(3)				
	13	高齢者保健福祉対策と地域看護活動(1)				
	14	高齢者保健福祉対策と地域看護活動(2)				
	15	高齢者保健福祉対策と地域看護活動(3)				
評 価 方 法	試験	(80%) および演習課題 (20%) による。				
教 科 書		保健師講座 2 地域看護技術,医学書院 保健師講座 3 対象別地域看護活動,医学書	院			
	惊 毕					
参 考 書 参考文献等	厚生	統計協会編:「国民衛生の動向」最新版 法令要覧 最新版,最新地域看護学各論 I・	各論Ⅱ(日本看記	護協会出版会)	

							看護学	牟部
科目区分			E活する人々の健	康と看護		聴講	否	
授業科目名	_ ,	f護学各論V-1(家庭選				科目履信	修 否	î
科目番号	N 1 3 0 0) 6	クラス番号	N 1				
	実習	7 #U L.) -> D	必修選択区分	必修	00 114:88			
開講時期 科目責任者	3年次 位 齋藤 基	後期セメスター	単 位 その他	2 単位	90 時間			
担当教員			ての他					
授業の概要	地域に生 学習環境及 護実践の目 括的地域 の特徴と優	正活する人々の生活の場で なび包括的地域環境におい 目的と特徴を理解する。を 環境をフィールドとし、他 建康との関連の理解に基づ 震護活動を計画、実施する	ヽて、対象の健康 体授業では、家庭 固人及び集団との づき、地域全体の	を生活を目 経環境、保)相互行為)健康状態	指し、看護 健・医療・ を展開する	職者が携 福祉施設 。また、	提供する。 と環境、 それぞれ	看包れ
学科目的学科目標	日 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	成健康看護学概論・各論で 健康看護学概論・各論で を学習する。 で生活する人々と生活のも で生活する個人及び集団の で生活する個人及び集団の で生活する。 で生活する。 で生活する。 で生活する。 で生活する。 で生活する。 で生活する。 で生活する。 で生活する。	と査定し、その解 場の特徴に応じた の健康をアセスメ こ対応した看護実 の看護において、	決回避に「相互行為 ントし、 践の特徴 保健・医療	向けて看護 を展開し、 看護計画を を理解する。 療・福祉との	活動を展生活を営立案する の連携・	開する力む環境と	
	П	授業内容	芩	授業 方法	事前・事役 (学習課		担当	
	1	訪問看護ステーション	実習	実習	実習フィ		地域健	
	2	訪問看護ステーション	実習	実習	ごとに課 示する。	題を提	看護学:	担
	3	訪問看護ステーション	実習	実習				
	4	訪問看護ステーション	実習	実習				
	5	学内演習		演習				
	6	通所介護又は通所リケ 施設実習		美省				
	7	通所介護又は通所リア 施設実習		美省				
	8	通所介護又は通所リケ 施設実習	、ビリテーション	実習				
	9	地域包括支援センター	実習	実習				ļ
	10	学内演習・統合演習		演習				
	せ 【グルーフ	2週間 5問看護ステーション、追 地域包括支援センター 『編成】 1 グループ当たり トリエンテーション、学内) 学生 5 ~ 6 人で	14 グルー	-プを編成す	-る。		
評 価 方 法	各実習フィ	アールドにおける行動目標	票の達成状況(90	%)、統合	トレポート	(10%)		
教 科 書	指定なし。							
参 考 書 参考文献等		f護学概論、地域健康看護 当当教員が提示する。	<u></u> 隻学各論 I ~IVで	使用した	教科書、配作	付資料		
備考	特になし。							

						看	護学部
科目区分	専門教育科	斗目 専門科目 地域で生活	する人々の健康	と看護	聴講		否
授業科目名		看護学各論V−2(公衆衛生					否
科目番号) 6	クラス番号		•		
授業形式			必修選択区分	11.00	師必修		
開講時期		ઇ期セメスター	単 位		位 180 時間		
科目責任者	齋藤 基	5. 本兴人业只	その他				
担当教授業の概要学科目目標	地 学護フ健看 目 目 は地地習実イ康護 的 標	意護学全教員 E活する人々の生活の場である。 をび包括的地域環境におい本短目的と特徴を理解する。といる。 と関連のは、個人及び集団と地域理解を書きる。 は健康・潜する。 は健康・潜する。 で生活する個人及び集団のに生活する個人及び集団のに生活する個人及び集団のに生活する。 で生活する個人及び集団のに生活するの人及び集団のので生活するの人及び集団のので生活するのので生活するのので生活するのので生活するの人及び集団のので生活するの人及び集団ののでき、など、自然を見出す。	る家庭環境、康生環境、康生環境、康生環境、東生のでは、を東大学を大学を大学を大学を大学を表した。 おいった でいい はい ない	健活境る査 合回 互 トの健・を、。定 し避 行 し特・	指し、看護職者だ 動環境及び包括はた、それぞれの様 た、個人及び集団で生活で生活を 地域で生活護活動を を展開し、生活を を展開し、生活を を展開し、生活を を選計画を立案で を理解する。 療・福祉との連携	が投機を	る境徴し 集る 竟 の看をとて 団方 と 重
	□	授業内容		授業 方法	事前·事後学習 (学習課題)	担	当
	1	オリエンテーション・学	內演習	演習	実習フィール		
	2~3	事業所実習・学校実習		実習	ごとに課題を打 示する。	是 看護 当教	
	$4\sim5$	学内演習(事前学習課題の)実施)	演習			
	6 ~ 9	保健福祉事務所・市保健所		実習			
	10	学内演習		演習			
	11~14	市町村保健センター実習		実習			
	15	学内演習		演習			
	16~19	市町村保健センター実習		実習			
	20	学内演習・統合演習		演習			
	【グルーフ	1週間 R健福祉事務所、中核市保健 プ編成】保健所、市町村実習 実習では1グループ ナリエンテーション、学内演	では、1グルー 学生5~6人で	プ学生 グルー	2~3人、事業 プを編成する。	「実習、 「	_ _ 学校
評価 方法	各実習フィ	ィールドにおける行動目標の	達成状況(90%)、統合	合レポート(10%))	
教 科 書	指定なし。						
参 考 書 参考文献等	_ ,	f護学概論、地域健康看護学 U当教員が提示する。	各論 I ~IVで使	用した	教科書、配付資料	ł	
備考	特になし。						

				3	看護学部
科目区分	専門教育科目 専門科目 地域で生活する人々の健康	康と看護	隻	聴講	可
授業科目名	人間の環境と健康 (疫学)			科目履修	可
科目番号	N13009 クラス	番号	N 1		
授業形式	講義 必修選択			i(必修)看護師	(選択)
開講時期	4 年次 通年 単	位	2 単位		(12.17.17
科目責任者	原美弥子 その		2 +15.		
担当教員	原美弥子、渡邉直行	167			
担ヨ教貝	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	まナィ	悪口の	ソナナ 叩さ ユルテム	マ広兴
授業の概要	この授業は、人間集団における健康状態とそれに関を学習し、人間集団の健康状態に影響する生活・環境の健康水準を表す指標データの査定や疫学統計調査によいる過程を通して、疾病予防、健康の保持・増進活動の意義を理解する。	竟の諸要 に必要な	区を理 な知識・打	解する。また、ヒ 支術を学習する。	地域集団 さらに、
	目的:人々の健康状態を疾病発症、疾病予防、健康増進と	関連する	る諸要因	から理解する。集[団の健康
学科目的学科目標	を査定し、集団の疾病予防、健康保持・増進のため 目標 1. 集団の健康状態に関連する諸要因や指標を疫学的 2. 疫学が発展してきた経緯を社会背景も踏まえて理 に対する保健活動の基本となる疫学の技術と知識	方法と関 解し、集	連させて 運動の健康	理解する。	寺・増進
	回授業内容		授業 方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当
	1 疫学総論-疫学発展の経緯と社会背景			毎回、学習課題	原
	1 2000			を提示	渡邉
	2 疫学指標(1)-疾病頻度測定の指標			C 1/C 7	
	3 疫学指標(2)-曝露効果の指標:相対危険、 危険	寄与			
	4 保健統計調査ー調査統計と業務統計、国際疾 類	病分			
	5 疫学調査法(1) - 疫学研究デザイン:記述疫 コホート研究、患者対照研究、介入研究	学、言	構義		
	6 疫学調査法(2) - 偏りと交絡、バイアスとその 御		演習 (含)		
授業の内容と方法	7 疫学調査法(3) -標準化:標準化死亡比、年 整死亡率	齢調			
	8 サーベイランス、疾病登録				
	g 疫学研究調査に必要な統計手法(1)ー標本抽	出と			
	標本サイズ	\			
	10 疫学研究調査に必要な統計手法(2) - 推定と検	中正			
	211 疫学研究調査に必要な統計手法(3) - 多変量(など	解析			
	12 疾病のリスクと要因-主な疾患の疫学(1)	1	構義		
	13 疾病のリスクと要因-主な疾患の疫学(2)				
	14 疾病のリスクと要因-主な疾患の疫学(3)				
	点兴 1. /A.m				
	15 疫学と倫理				
評価 方法	レポート(20%)、テスト(70%)、出席(10%)から総合的	的に評価 	H		
教 科 書	日本疫学会 編集 『疫学 基礎から学ぶために』 厚生統計協会 編 『国民衛生の動向』 厚生統計		<u> </u>		
参 考 書 参考文献等	日本疫学会 編集 『疫学ハンドブック 重要疾患の	の疫学と	:予防』	南江堂	
備考	特になし				

					看	養学音			
科目区分	專	門教育科目 専門科目 看護専門職	教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能 聴講 可						
授業科目名	機能	能看護学概論			科目履修	可			
科目番号			ラス番号	N1					
授業形式	講	•	修選択区分	必修	117				
開講時期		手次 後期セメスター 単	·	1 単位 15 時間					
科目責任者		富美佐江 それまた 中田忠江	の 他						
担当教員		能看護学全教員、中里貴江 "你你不可以,不可我必须,不可	- multi-lar _ 1) [=	76.74.7-1-7.7	- /II tha L 3 - LV/ /Na T/A	(m) #			
		機能看護学は、看護学生を含む看護							
	点	をあて、究極的には、対象の健康状態	態の維持・向」	上に貢献するこ	とを目指す学問て	である。			
な米の有用	20	の授業においては、機能看護学の諸	6側面である看	護教育、看護管	管理、看護政策に	関して			
授業の概要	その	の概要を学習する。また、これらの	充実が看護職	者個々人やシス	ステムとしての看	護の質			
	に長	影響し、対象の健康状態の改善に貢	前献することを	·学習する。さら	らに、この過程を	诵し看			
		戦者が制度的側面に関わりその機能				Д 0 д			
		戦争が前及的側面に関わりての機能 内:国内外の様々な場において看護			. , - ,	しな活			
		り. 国内外の様々な場において有護 して、機能看護学の目的と意義		ている技術で係	党化化 子白り るこ	こを囲			
 学科目的	目相	票:1.社会において看護職者が果		と割と機能を理解	解する。				
学科目標		2. 看護職者が機能を発揮する	ために必要な	(要素を理解する	5.				
		3. 看護職者がシステムを開発	巻・維持・変革	でする意義を認め	める。				
		4. 看護職者の発達を支援する	意義を認める	00					
		極坐中		授業	事前·事後学習	+n //			
	口	授業内容		方法	(学習課題)	担当			
		看護職の機能と機能看護学の意義	NA SAN						
		-本学のカリキュラムにおける機能看護	養学の位置づけ	<i>†</i>					
	1	一機能看護学の定義と目的	- >>			吉富			
	_	一看護教育学領域と看護政策管理	里学領域						
		看護教育学とは何か -看護教育学の定義と目的							
		看護政策管理学とは何か							
	2	ー社会において看護職が果たして	ついろ機能			巴山			
		看護職者の発達過程							
	3	一ライフサイクルと看護職者の発			吉富				
授業の内容と方法	0	- 看護職者の発達に必要な要素							
		機能看護学が支える看護職の役割	ij	講義	毎回、学習課題				
	4	一職業上の役目と役割			を提示	岩波			
		-看護職の役割 手蓋な提供よる其際しなること	=)			m . 1			
	5	看護を提供する基盤となるシステーシステムとは何か	- A			巴山加藤			
	υ	- システムとは何か - 看護を提供する基盤となるシス	くテム			北爪			
		看護職によるシステムの開発・維				10/10			
	6	ーシステムの開発・維持・変革の実				中里			
		-社会の変化に対応した看護職の)機能の拡大						
		まとめ							
	7	ー看護職者の発達に必要な要素	扣る手無聯も	С		吉富			
		ーシステムの開発・維持・変革を 件	担り有護職者	ツ安					
=	7 .					1			
評価方法	ν ⁷	ポート (100%)							
教 科 書	指定	官なし							
参考書	舟	島なをみ:看護のための人間発達学	第4版,医	医学書院,2011.					
参考文献等		本看護協会編:新版看護者の基本的責				版会,			
	200	6.							
備考									

							看護字
科目区分	専門	教育科目 専門科目 看護専門職の役	割と機能			聴講	可
授業科目名		看護学各論 I (看護教育)				科目履修	可
科目番号		4002	クラス番	号 N	1	11111212	, ,
授業形式	講義		必修選択区				
開講時期		次 前期セメスター	単			15 時間	
科目責任者		美佐江	その	他	<u>+ L.</u>	10 #/ [#]	
担当教員		天江石 看護学(看護教育)全教員	C V)	lie			
担当教員		_{1 曜子} (1 曜秋日) 土秋貝 護教育学は、看護学各領域の教育に共	温して並写6	カルカカ	ナスコ	五字なが色しし	マ紅炉
授業の概要	を展護の言制	関する学問であり、この研究成果を活 者個々の発達を支援する。また、それ 授業においては、機能看護学の重要な 度や看護学実習の特徴および看護継続 関して学習する。さらに、看護教育学	用すること! を通し、質の 一領域である 教育における	こより、)高い看 る看護教 る学習ニ	看護 護を提 (育学) (一ド ⁸	学生を含むすべ 供することを に焦点を当て、 や教育プログラ	ての看 目指す。 看護教 ムの特
		:看護職者および看護学生の発達支援					
学科目的学科目標	目標	と方法を学習する。 : 1. 看護教育学の特徴を理解する。 2. 看護師養成教育、看護学教育の到 3. 看護専門職の教育における主体的 4. 看護専門職が教育的機能を発揮 5. 看護教育学研究の意義と研究成具	的学習の意義 する必要性を	を確認 認める。	する。		
	<u> </u>		> 41/1	授業		前·事後学習	11 VIV
	口	授業内容		方法		学習課題)	担当
	1	看護教育学の特徴 看護教育学の定義と理念 看護教育学と看護学教育 看護教育学を学習する意義 主体的・自発的学習					吉富
	2	看護師養成教育の現状と課題(1) 看護師養成教育に関わる法的基盤 看護師養成教育の制度上の特徴 社会情勢と看護教育制度			岩波		
極業の内容も古汁	3	看護師養成教育の現状と課題(2) 看護基礎教育課程のカリキュラム 大学と専門学校のカリキュラムの村 大学における看護師養成教育の特徴	-44- A-6-	毎回、学習課題を	岩波		
授業の内容と方法・	4	看護専門職と主体的学習(1) 看護師養成教育の歴史的変遷		講義	提示		岩波
	5	看護専門職と主体的学習(2) 教育評価に関する基本的知識 看護専門職に必要な自律的態度と自	自己評価				岩波
	6	看護専門職が教育的機能を発揮する。 看護卒後教育の定義と構成 看護継続教育の定義と構成 看護職に求められる教育的機能 看護職の発達と自己学習					吉富
	7	看護教育学研究の意義と研究成果活用 看護教育学研究の目的と意義 看護教育学研究の成果と看護学教育					
	8	筆記試験					
評 価 方 法	筆記	 試験(100%) ※試験日時は別途排	宣定する。				
教 科 書	杉森。	みど里・舟島なをみ:看護教育学第4月	饭増補版,医	医学書院	, 2009).	
参 考 書 参考文献等							
備考							
/ 有							

							自護子部
科目区分	専門	教育科目 専門科目 看護専門職の役割	割と機能			聴講	可
授業科目名	機能	看護学各論Ⅱ(看護管理)				科目履修	可
科目番号	N 1	4003	クラス番号	F N 1	-		
授業形式	講義		必修選択区分	2 必修	Ş		
開講時期	3年	次 前期セメスター	単 位	1 単	位 15日	時間	
科目責任者	加藤	栄子	その他	1			
担当教員	機能	看護学(看護政策管理)全教員					
授業の概要	学習 学習 る諸 経済	の高い看護を提供するために人的・物的する。看護職者の機能と役割の拡大およする。 また、わが国と諸外国の看護シス問題の検討をとおして看護の役割の拡大的資源活用の実際に関して学ぶ。看護職看護管理学の研究領域・方法・対象を管	びその質の向 テムの比較検 大と看護管理: 者の満足度調	上をキ 討や CI /ステム	ャリア発 VS 制度の 構築に	達という 導入・普 おける人的	視点から 及に関す り・物的・
学科目的学科目標		: 質の高い看護を提供するために人的・する意義と方法を学習する。: 1. 保健医療システムが有効に機能すことを理解する。2. 組織の成立、存続、発展にむけた。3. 看護職者として組織の成立、存続	つるために組織 き管理(manag	成の成立 ement) 勺に参画	、存続、 の重要h iするこ。	発展が重 生を理解す との意義を	要である
	□	授業内容		授業 方法		事後学習 課題)	担当
	1	保健医療システムの目的と機能(1) -保健医療システム -保健医療システムの変遷(近代)		講義	講義中課題を	に学習 提示	巴山
	2	保健医療システムの目的と機能(2) -保健医療システムの変遷(現代)					巴山
	3	保健医療システムが有効に機能するた ー組織の定義 ー組織の成立要件 ー組織の構造と機能				北爪	
授業の内容と方法	4	組織の成立、存続、発展のための管理 ー管理の定義 ー管理の要素	1 (1)				加藤
	5	組織の成立、存続、発展のための管理 管理の過程	(2)	-			加藤
	6	組織の成立、存続、発展のための管理 一人的・物的・経済的資源および予算					巴山 加藤
	7	看護職者が組織の成立、存続、発展 l との意義と課題	こ参画するこ	-			北爪
	8	筆記試験					加藤
評 価 方 法	筆記	試験(100%)					
教 科 書	必要	に応じて、資料等を配布する。					
参 考 書 参考文献等		光編:初期の看護行政,日本看護協会出 陸子編:看護サービス管理 第3版,医					
備考	特に	なし					

						看	養学部
科目区分	専門	教育科目 専門科目 看護専門職の役割	割と機能			聴講	可
授業科目名	機能	看護学各論Ⅲ-1 (看護政策)				科目履修	可
科目番号	N 1	4 0 1 4	クラス番号	N 1			
授業形式	講義		必修選択区分	保健	師:必	修/看護師	:選択
開講時期	3年	次 前期セメスター	単 位	1 単位	立 15	時間	
科目責任者	巴山	玉蓮	その他				
担当教員	機能	看護学(看護政策管理学)全教員					
授業の概要	護の 方自	健医療制度およびこれらに関連する諸語質を保証するための知識・技術に関して治体などの行政単位における対象の健康に関して学習する。	て学習する。具	体的に	は、市局	町村・都道席	F県等地
学科目的学科目標		: その時代その社会に適応した看護シスカ法と、その過程において看護職が見まり、 立て政策及び政策過程について理解 2. 看護に関する政策の歴史と変遷しる。保健医療システムにおける行財では、看護職者が政策過程に参画する。	果たす役割の重 する。 こついて理解す 攺の基礎的知識	要性を -る。 战を理解	学習す する。	· る。	めの
	口	授業内容		授業 方法		事後学習智課題)	担当
	1	政策に関する基礎知識		講義	講義	中に学習を提示	巴山
	2	政策過程に関する基礎知識 一政策と政策過程 一公共政策					加藤
授業の内容と方法	3	看護に関する主要な政策 一政策の成立背景と今日の課題			巴山		
	4	保健医療システムにおける行政(1) -基盤となる根拠及び理念					巴山
	5	保健医療システムにおける行政(2) 一行政のしくみと機能					加藤北爪
	6	保健医療システムにおける財政 -国と地方財政の仕組み					巴山
	7	看護職者が政策過程へ参画するための	意義と課題				加藤北爪
評 価 方 法	課題	レポート (100%)			•		•
教 科 書	指定	た! 、					
参考書参考文献等	1)	見藤隆子他:看護職者のための政策過 藤内修二他:保健医療福祉行政論, 医学 星旦二、麻原きよみ:これからの保健	書院,2011			•	
備考	特に	なし					

					看	護学部					
科目区分	専門	女育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能 聴講 可									
授業科目名	機能	看護学各論Ⅲ-2 (地域行政政策)			科目履修	可					
科目番号		4 0 1 5	クラス番号	_							
授業形式	講義		必修選択区分		師必修、看護師選	択					
開講時期		次 前期セメスター	単 位		位 15 時間						
科目責任者 担 当 教 員	齋藤 齋藤		その他								
授業の概要	保 1 (ラ めの) 単位 習す	一 健医療福祉制度およびこれらに関連す 看護政策)の授業を前提とし、地域にお 知識・技術に関して学習する。具体的に における対象の健康保持・増進に向けた	は、都道府県 は、都道府県 地域ケアシス	的側面だ ・市町村 テム構等	いら看護の質を保証 対等地方自治体など 終や政策的展開に関	するた での行政 して学					
学科目的学科目標	目標 1. 2. 3. 4.	の方法及びその過程において看護職が 地域における主要な保健医療福祉行政 地域における保健医療福祉行政の連携	が果たす役割の で及び課題を理解 について理解 評価の過程を理解する。特徴を理解する。	重要性解する。 する。 理解する。	を学習する。						
	回	授業内容	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	授業方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当					
	1	地域における保健医療福祉行政の主要課題 保健医療福祉行政の連携システム①	をな施策と	講義	毎回の授業終了時に学習課題を提示する。	齋藤					
	2	保健医療福祉行政の連携システム②									
	3	保健医療福祉計画の策定・実施・評価									
	4	保健医療福祉計画の策定・実施・評価	fi②	冷羽	課題レポート						
授業の内容と方法	5	ヘルスプロモーションに関する演習(演習	疎越レホート を提出する。						
	6	ヘルスプロモーションに関する演習②									
	7	地域における看護管理の目的と機能 ー組織、人材、予算管理-		講義	特になし。						
評 価 方 法	授業	終了時の試験 (70%)、演習における課	題レポート(3	30%)							
教科書	内藤	修二他:標準保健師講座別巻1 保健	医療福祉行政論	ì,医学	書院						
参考文献等	見藤	隆子他:看護職者のための政策過程入院	門,日本看護協	会出版	会						
備考	演習.	以外の授業については聴講が可能である	3.								

看護学部

						1	看護学部
科目区分		教育科目 専門科目 看護専門職の役割				聴講	否
授業科目名	機能	看護学各論IV(専門職的機能の発達支持	爰)			科目履修	否
科目番号	N 1	4 0 0 5	クラス	番号	N 1		
授業形式	演習		必修選	択区分	選択		
開講時期	3年	次 前期セメスター	単	位	1 単化	立 30 時間	
科目責任者	吉富	美佐江	そ O.) 他			
担当教員	機能	看護学全教員			•		
授業の概要	を重域する。	護職者は専門職であり、効果的な実践をに自律的に学習し続ける必要がある。まである。この授業においては、小グルーおける様々なテーマの焦点化及び問題をまた、専門職的自律性と自己教育力の理解する。	また、その -プによう 解決を試)関連、看	のため る発見: み、自己 香護職な	には、自 学習演習 己教育力 が自己教	目己教育力を高め 習を通して、機能 日の向上を図る方 故育力を高める重	ることが 看護学領 法を学習 要性に関
学科目的学科目標		: 看護専門職者として自己評価活動を展力の重要性を学習する。: 1.機能看護学に関わる興味・関心を2.テーマの焦点化・問題解決過程を通	と明確に	し、問	題解決	過程を実施する。	
,	口	授業内容			授業	事前·事後学習	担当
	딘				方法	(学習課題)	15 =
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 -機能看護学各論IVを学ぶ意義 -授業の目的・目標 -機能看護学に関わるテーマの実例 -学習方法			講義		吉富
	2	問題解決に向けた文献検索の方法					吉富
	3	学習グループの形成 -解決したい問題、興味・関心の共通性による グループ形成 -テーマの焦点化					
	4	グループディスカッション 用語の確認 カラボケー カラボケー					
授業の内容と方法	5	ー自己評価、自己教育力、問題解決過問題解決過程の体験 ーテーマの焦点化			授業終了毎に レポートを 記載し、提出	吉富	
1文末の71分とガム・	6	ーテーマの点点化 ーテーマの決定 ーテーマに基づく文献検索				他 ※受講	
	7	ー文献入手 一文献精読による内容の理解					者数に応じて
	8	- 文献検討による問題解決状況の確認 - 問題解決過程の自己評価 中間報告の準備			演習		決定
	9	中間報告 -経過報告と報告内容に対する質疑応	答				
	10	学羽子田の悪佐しがま雑牌					
	11	学習成果の要約と発表準備					
	12	・問題解決過程の確認と再評価					
	13	・問題解決状況の確認と自己評価					
	14	・発表準備に向けた資料等の作成					
	15	成果発表と質疑応答 -成果発表と発表内容に対する質疑応	答			最終レポート	
評 価 方 法	行動	目標の達成状況(100%)				ı	1
教科書	指定						
参考文献等		中に必要に応じて適宜提示する。					
備考							
/ 与							

								看護字 部
科目区分	専門教	育科目 専門科目 看護専門職の役	割と機	能			聴講	否
授業科目名	機能看	護学各論V(実習)					科目履修	否
科目番号	N 1 4	0 0 6	クラ	ス番	多号	N 1		
授業形式	実習		必修	選択	区分	選択必修		
開講時期	4年次	前期セメスター	単		位	2 単位	90 時間	
科目責任者	巴山玉		そ	の	他			
担当教員	機能看	護学全教員						
	機能看	f護学概論・各論で学習した内容を約	を合し、	看護	職者	の機能を約	推持・拡大する	システム
授業の概要	に対して	て総合的に学習する。行政・臨床・地	也域・ゴ	と業・	大学	などのフィ	ィールドにおい	いて、その
	実践の特	特徴を学習し、看護職者の役割と機能	じを発月	まさり	とる方	法の必要性	生を理解する。	
	目的:	機能看護学概論・各論で学習した内	容を統	合し	、看	護職者の機	後能を維持・拡	大するシ
		ステムに対して総合的に学習する。						
	目標<	コースA:看護政策管理グループ>						
		健医療システムの開発・維持・変革						
	2. 保	健医療システムの開発・維持・変革	におけ	る看	護職	者の役割き	を行・拡大の 重	重要性を理
学科目的	解	する。						
学科目標		標1,2の達成に向けてグループと						-
1 11 11 100	4. 看	護の機能の発揮に向けて役割を遂行	し、シ	/ステ	ムを	開発・維持	身・変革できる)看護職者
	-	なるための自己の課題を見出す。						
		コースB:看護教育グループ>						
		己の興味・関心に従い、看護職者が				舌動を参加	観察(参加型)する。
		護職者が教育的機能を発揮する意義						
	3. 教	育的機能を発揮できる看護職者にな	るため	の自	己の記			
	旦	コースA					ースB	
	1	オリエンテーション・学内演習(1))	-			ン・学内演習	(1)
	2	フィールドにおける実習(1)		フィ	ール	ドにおけ	る実習(1)	
	3	フィールドにおける実習(2)		フィ	ール	ドにおけ	る実習(2)	
	4	フィールドにおける実習(3)		フィ	ール	ドにおけ	る実習(3)	
	5	学内演習(2) 中間評価		学卢	羽演習	7(2) 中間]評価	
	6	フィールドにおける実習(4)		フィ	ール	ドにおけ	る実習(4)	
	7	フィールドにおける実習(5)				ドにおけ		
	8	学内演習(3) グループワーク		学卢	羽演習	1(3) グル	ノープワーク	
	9	成果発表 質疑応答				質疑応知		
	10	最終評価 レポート提出				j レポー		
授業の内容と方法	【期間	】 2週間 予定:平成24年6月2	25 日(月	月)か	ら7 <i>)</i>	月 6 日 (金)		
	【場所	】 コースA:病院,日本看護協会	,群馬	県庁	など			
		コースB:病院,大学,群馬県	看護協	会な	ど			
		実習場所に応じて設定						
		】 グループの形成状況に応じて担	当教員	を決	定			
	【内容	・方法】	2 - /2 L					
		コースA:看護政策管理の実際			•			
		システムを開発・維	持・変	単で	さる	看護職者に	こなるための目	己の課題
		を見出す。			m+h →r.	のなましょう		n ##11\ \ 1
		コースB:自己の興味・関心に						
	[本 共	教育的機能を発揮で	さる有	護城	有と	よるにめの	「課題を見出す	0
	【争削	・事後学習】	胎が	15 10 ·	~ =	一 いって (保証	お学羽細暗チー	担テナマ
→	,,, ,,,,	各コースの目標やフィールドの			し、ラ	マ日に必安	は十百味趣で	此小りる。
評価方法	出席と	課題レポート 行動目標の達成状況((100%))				
教 科 書	指定な	l						
参考書	必要に	応じて適宜提示する。						
参考文献等	-= > -/							
備考	特にな	L						

	1				1		看護学部				
科目区分	専門	教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能 聴講 可									
授業科目名	看護	関連法規論				科目履修	可				
科目番号	N 1	4007	クラス番号	N 1	:						
授業形式	講義		必修選択区分	· 必修	Ç						
開講時期	3年	次 前期セメスター	単位	1 単	位 15	時間					
科目責任者	巴山:		その他			411.4					
担当教員	· ·	一是 看護学(看護政策管理)全教員	C 42 1E	'							
授業の概要	関護回保に目的	この授業においては、看護職者の役割と機能およびこれに関わる様々な法の種類・特徴にする知識を学習する。また、これら諸法規が実践を取り巻く環境にどのように影響し、看職者の役割と機能を規制・保護するのかを学習し、法的側面から対象の健康問題の解決・避を目指す重要性を理解する。さらに、これら一連の過程を通して、国民の健康に関わる健・医療専門職として国家三権としての司法、行政、立法に関しても独自の見解を明らかし、影響力を持つ必要性についても学習する。的:看護職者の実践に関連する法規を学習し、職業上の法的責任を学習する。標:1.社会システムを規定する法について理解する。									
学科目的学科目標	口你	2.保健医療システムに関連する法律 3.看護専門職者に必要な法律の基礎を 4.看護職者としての責務を法的にと	こついて理解 印識を理解す	る。 を理解 [*]							
	回	授業内容		授業 方法	(学習	事後学習 課題)	担当				
	1	社会システムと法 - 社会システム - 法に関する基本的な考え方		講義	講義中課題を	ロに学習 提示	巴山				
	2	保健医療システムと法律 -保健医療システム -人間の権利やその擁護を保障する法 -保健医療システムに関係する法律			巴山						
	3	看護職に直接関係する法律(1) -保健師助産師看護師法					北爪				
授業の内容と方法	4	看護職に直接関係する法律(2) -看護師等の人材確保促進に関する法	律				北爪				
	5	看護職を取り巻く法律(1) -医療提供者の身分、資格を規定する -看護職者が活動する場に関する法律					北爪 加藤				
	6	看護職を取り巻く法律(2) -看護の対象を保護する法律 看護業務の拡大に関連する法律(1) -医療事故と法的責任					加藤				
	7	看護業務の拡大に関連する法律(2) -新しい法律					加藤				
	8	筆記試験									
評 価 方 法	筆記: ※試:	 				I					
教 科 書		豊子他:看護法令要覧 平成 24 年度版,	日本手雑协	今出版)					
参考書			口个但设励	云山瓜	云, 4017	۷.					
参考文献等	神莪	中に必要に応じて適宜提示する。									
備考											

							直護学部
科目区分	専門教育科目	専門科目 看護専門	引職の役割と機能			聴講	可
授業科目名	看護専門職の	役割と機能 I				科目履修	可
科目番号	N 1 4 0 0 8		クラス番号	7 N 1			
授業形式	講義		必修選択区分) 必修			
開講時期	3年次 前期	セメスター	単位	1 単	位 15	時間	
科目責任者	原美弥子		その作	h,			
担当教員		藤栄子、北爪明子					
授業の概要	その特徴を理 て、その役割 域を対象に関わる 誕生に関わる 役割とその活 し、看護職者	解する。この授業にお と機能の共通性、相違 護活動を展開する看護 助産師等の様々な看護 動の実態を学習する。 の役割と機能について	び過去・現在・未来にいては、様々な場にお性、多様性を学習する を職者である保健師、学 職者の役割や活動をは さらに、諸外国で活躍 で理解する。 学校における看護職者の	いて活動 。具体的 や校保健ル はじめ、 する様々	かするえ かには、 こ関わ ・ き護職 ・ な看記	看護職者に焦 人々が生活 る養護教諭、 者の専門性、 養職者の活動	点を出めて 生様 学習
学科目的学科目標	割と機能の変化 目標:1.看護	ごを学習し、その特徴をF 真職者の疾病予防、健康の		護活動の役 さなる教育	殳割・樹 で的知識	機能を学習する ・技術につい	5.
	□	授業内容	ξ 	授業 方法		・事後学習 全習課題)	担当
		者の健康への取り組み 設における看護職者の		講義	毎回を提	、学習課題示	原加藤
	2 キスパ	者の教育的活動(1): ート・スペシャリスト 等)の教育的活動	医療施設におけるエ (認定看護師・専門				加藤
	3 らゆる 防、健康	防、健康の保持・増進活動に向けた教育的活動					
授業の内容と方法	看護職者の教育的活動(3):地域における保健所や保健センターにおける保健師・助産師による疾病予防、健康課題や健康問題の解決に向けた教育的活動						
	看護職・一・学						
	6	者を取り巻くコ・メラ					加藤
	看護職 7 全体の	者間の教育的活動にお まとめ	3ける連携				原
評 価 方 法	レポート(40%)、課題成果(30%)、出	¦席(30%)から総合的に	評価			
教 科 書	指定しない						
参考書参考文献等	社団法人 日 (株)日本看	護協会出版会 2006. 『看護学生のための日	『新版 看護者の基本的 本看護史』医学書院 本看護史』関巻 1 健康	2003.			
備考							

接着料日名							看護字部				
辞 日 奇 今 N 1 4 0 0 9				割と機能			否				
接 等 形 式				1,	T	科目履修	否				
開 書 時 期 4 年次 前期セメスター 単 位 2 単位 90時間 2 月 在 2 日 在 2 日 在 2 日 全	· ·		0 9								
日日責任者						o u∓===					
世 当 教 員			11別セメスター		<u> </u>	ノ时间					
人館・民族・午齢・性別の異なるあらめる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を見し、看護職者が果たす様々な役割と機能を学習する。 関心の体い専門領域を選択し、看護而課程では消除などの実験現場において、倒人または集団を象とし、側別性にあわせた看護を限制する。これらを通して、生延発達着護学における学習成果を合し、あらめる対象に対して、担機健康養学における学習成果を含し、あらめる対象に対して、地域健康養学における学習成果を含し、あらゆる対象に対して、地域健康養学における学習成果を応らし、あらゆる対象に対して、地域健康養学における学習成果を応らし、あらゆる対象に対して、地域健康養学における学習成果を応らし、あらゆる対象に対して、地域健康会議学における学習成果を応らし、あらゆる対象に対して、地域健康会議学における学習成果を応らし、あらゆる対象に対して、特別で、大学・個人または集団を対象とし、制御性においても高速を実践する意識を理解する。 この過程を通し、対象が中が健康上の問題の解決ならい、で制度を対象に対して、の場所を対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要に対解する。この過程を通し、対象が中が健康上の問題の解決ならび、間随発生の回避に向けて護康者が果たす様々な役割と機能を学習する。 1 機関した相互行為を通して、各専門領域に応じた看護を展開するために必要な知識・技術・資本の場合は、大学の情報を表して、各専門領域において名護を展開する。 4 展開した相互行為を通して、各専門領域において名護を展開するのに必要な学習課明達にする。 5 実習を体を通して、各専門領域において有護を展開する。 6 実習全体を通して、各専門領域においても関心の常識を展析しために必要な学習課別が構造し、対象とが表現を表現を表現して、大学での発達を優先しために選挙する。 7 大学の大学の大学の大学を選集 担当教育、対象を発生し、企業を実践する。 2 2 学内族習 (第2 2 学内族習 (第2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				一 て の 他							
種・民族・年齢・性則の異なるあらゆる対象に対し、必要に応じて看護を実践する重要性を解する。この過程を通し、対象が持つ健康上の問題の解決ならびに問題発生の回避に向けて護職者が果たすまな、と、関心のある専門領域を選択する。 2. 選択した専門領域に基づき、関心のある専門領域を選択する。 2. 選択した専門領域に基づき、関心のある専門領域を選択する。 3. 展開した相互行為を通して、各専門領域に応じた看護を展開するために必要な知識・技術・度を理解する。 4. 展開した相互行為を通して、各専門領域において看護・専門職が果たす役割と機能の特徴をすった。 5. 実習全体を通して、各専門領域においてより質の高い看護を展開するために必要な学習課題明確にする。 6. 実習全体を通して、各専門領域においてより質の高い看護を展開するために必要な学習課題の場合に対して、医習の学習内容を基盤として継続的・自律的に学習をある意義を確認する。 「東習と体を通して、看護学に関して、既習の学習内容を基盤として継続的・自律的に学習をある意義を確認する。 「実習イドライン必読 有護等 クラ内演習 演習 実習 ・実習フィールドごとに 看護等 ター10 学内演習 演習 「実習イドライン必読 看護等 ター10 学内演習 演習 「実習イドライン必読 看護等 ター10 学内演習 演習 「実習イドライン必読 看護等 ター10 学内演習 演習 「場所」 2週間(平成 27 年 6 月 ~ 7 月) 「場所」 2週間(平成 27 年 6 月 ~ 7 月) 「場所」 2週間(平成 27 年 6 月 ~ 7 月) 「場所」 4当教員が専門に応じて実習経験に基づき、関心の高い専門領域(伊胎期、乳幼児期・学童期、足権別・対策をし、個別性に合むせる看護を展開する。 2 人を通り表を理解する。 保健師課程では、たれまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域(伊胎期、乳幼児期・学童別、足権別性に合むせる看護を展開する。 これらを通して、地域健康者象とし、個別性に合むせる看護を展開する。 これらを通して、地域健康者象とし、個別性に合むせる看護を展開する。 これらを通して、地域健康者象とし、個別性に合むせる看護を実践する意義を理解する。また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において、領人または集団を対象とし、個別性におわせた看護を実践する意を実践する。また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において、領人または集団を選択して、100%) 各担当教員、水器では、おまた、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において、看護を実践する。また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において、経験を理解する。 また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において、経験を理解する。 と称は対域といて、100%) 各担当教員、大器が表別を理解する。 また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において、200%に対し、200%に対して、200%に対しで、200%に対して、200%に対しで、200%に対して、200%に対しで、200%に対しで、200%に対して、200%に対して、200%に対しで、200%に対して、200%に対して、200%に対して、200%に対	授業の概要	し、看護耶 製心の語 象とし、他 合し、毎 に、毎 を展開する 護を実践	職者が果たす様々な役割と機能を 高い専門領域を選択し、看護師課和 個別性にあわせた看護を展開する。 らゆる対象に対して看護を実践する 課程では地域などの実践現場においる。これらを通して、地域健康看記 する意義を理解する。また、学生们	学習する。 程では病院などの実践 , これらを通して、生 る意義を理解する。 いて、個人または集団 護学における学習成果	表現場において 涯発達看護学]を対象とし、 とを統合し、お	て、個人また 学における学 個別性にあ からゆる対象	は集団を対 習成果を統 わせた看護 に対して看				
四 技業内容 方法 (学習課題) 担当 1		程 解 調 目 1	・民族・年齢・性別の異なるあらいする。この過程を通し、対象が持ってる。この過程を通し、対象が持ってるが果たす様々な役割と機能を含いまでの実習経験に基づき、関心の民した専門領域において、クライコする。 別した相互行為を通して、各専門領域理解する。 別した相互行為を通して、各専門領域と対した相互行為を通して、各専門領域において、	ゆる対象に対し、必要の健康上の問題の解決学習する。 のある専門領域を選択にントやその家族、他 関域に応じた看護を展 関域において看護専門 いてより質の高い看護	に応じて看記ないに間とする。 の看護職者、 開するために 職が果たする。	襲を実践する避 一般を実践する避 医療職者と こ必要な知識 と割と機能の こめに必要な	重要性を理 に向けて看 相互行為を ・技術・態 特徴を考察 学習課題を				
1 オリエンテーション・学内演習 演習 ・実習ガイドライン必読 生涯預 2 学内演習 演習 ・実習フィールドごとに 必要な課題を提示・実習終了後、フィールド 看護学 地域係 70 (フィールド 20 (場所) 担当教員が専門に応じて実習場所を決定する。 ・実習終了後、フィールド 看護学 担当教員が専門に応じて実習場所を決定する。 「グループ編成】1 グループ 3~6 名を原則とし、学生の希望を優先しながら調整する。 (方法) 看護師課程では、これまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域(母胎期、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期にある対象)の看護を自ら選択し、個人または集団を対象とし、個別性に合わせた看護を展開する。これらを通して生涯発達看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に看護を実践する意義を理解する。 保健師課程では地域などの実践現場(家庭環境における看護、就労環境における看護)において、個人または集団を対象とし、個別性にあわせた看護を展開する。これらを通して、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対して看護を実践する意義を理解する。また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において看護職者が果たす役割と機能を理解する。 評価方法 各担当教員(実習領域)が設定した行動目標の達成状況(100%) 教 科書 各担当教員が提示する。 参考書 各担当教員が提示する。 5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定		口	授業内容				担当				
2 学内演習 演習 ・実習フィールドごとに 必要な課題を提示 ・実習を提示 ・実習終了後、フィールド ・支にレポートを提示 ・支にレポートを提示 ・担当教 ・支にレポートを提示 ・支に対し、対し、対し、		1	オリエンテーション・学内演習	<u> </u>			生涯発達				
3~8 各フィールドにおける実習 実習 必要な課題を提示		2	学内演習		実習フィール	ドごとに	看護学・				
9~10 学内演習 演習 でとにレポートを提示 担当教 「実育於」後、フィールト					必要な課題を	提示	地域健康				
 【期間】2週間(平成27年6月~7月) 【場所】担当教員が専門に応じて実習場所を決定する。 【グループ編成】1グループ3~6名を原則とし、学生の希望を優先しながら調整する。 【方法】看護師課程では、これまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域(母胎期、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期にある対象)の看護を自ら選択し、個人または集団を対象とし、個別性に合わせた看護を展開する。これらを通して生涯発達看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に看護を実践する意義を理解する。保健師課程では地域などの実践現場(家庭環境における看護、就労環境における看護)において、個人または集団を対象とし、個別性にあわせた看護を展開する。これらを通して、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対して看護を実践する意義を理解する。また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において看護職者が果たす役割と機能を理解する。 評価方法各担当教員(実習領域)が設定した行動目標の達成状況(100%) 教科書各担当教員が提示する。 参考書参考文献等各担当教員が提示する。 5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定 							看護学				
接業の内容と方法 【場所】担当教員が専門に応じて実習場所を決定する。 【グループ編成】 1 グループ 3~6 名を原則とし、学生の希望を優先しながら調整する。 【方法】看護師課程では、これまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域(母胎期、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期にある対象)の看護を自ら選択し、個人または集団を対象とし、個別性に合わせた看護を展開する。これらを通して生涯発達看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に看護を実践する意義を理解する。 保健師課程では地域などの実践現場(家庭環境における看護、就労環境における看護)において、個人または集団を対象とし、個別性にあわせた看護を展開する。これらを通して、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対して看護を実践する意義を理解する。また、学生個々の学習過程を共有・統合し、各専門領域において看護職者が果たす役割と機能を理解する。 評価方法 各担当教員(実習領域)が設定した行動目標の達成状況(100%) 教科書 各担当教員が提示する。 参考文献等 各担当教員が提示する。 5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定				万	ごとにレポー	・トを提示	担当教員				
評 価 方 法 各担当教員(実習領域)が設定した行動目標の達成状況(100%) 教 科 書 各担当教員が提示する。 参 考 書 各担当教員が提示する。 5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定	授業の内容と方法	【場所】 i 【グルーン 【方法】 i i	【グループ編成】 1 グループ 3~6 名を原則とし、学生の希望を優先しながら調整する。 【方法】看護師課程では、これまでの学習経験に基づき、関心の高い専門領域(母胎期、乳幼児期・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期にある対象)の看護を自ら選択し、個人または集団を対象とし、個別性に合わせた看護を展開する。これらを通して生涯発達看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に看護を実践する意義を理解する。 保健師課程では地域などの実践現場(家庭環境における看護、就労環境における看護)において、個人または集団を対象とし、個別性にあわせた看護を展開する。これらを通して、地域健康看護学における学習成果を統合し、あらゆる対象に対								
教 科 書 各担当教員が提示する。 参 考 書 各担当教員が提示する。 多 考 文献等 各担当教員が提示する。 5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定	証 価 士 辻										
参考文献等 各担当教員が提示する。 5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定			, 0140100	示ツ連双仏仇(100%)	1						
5月中旬にオリエンテーション、6月にフィールド選択と決定の予定	参考書										
備 考 原則として看護技術学各論IV (実習)、生涯発達看護学各論IV (実習)、地域健康看護学各論V-1 庭環境実習)の単位を取得していること。	備考	原則として	て看護技術学各論IV(実習)、生涯			康看護学各詞	倫V-1 (家				

看 1 1 3 4 機 る 術 す 目 も る も の も る る る る る る る る る る る る る	し、直面した問題を学術的・自律的 : 1. 看護学生から看護職者への役割 2. 選択したフィールドに応じた実 3. 保健医療チームメンバーとして	習り、ラのでは、一般では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ス番号 位 他 護し加 と 電 で で で で で で で し か と の で で で し と の で で る 重 で る 重 で で で で で で で で で で で で で	- N1 自由 2単位 9 1 「「 イールドにおい これまで学習しての責務を果か での責務を果か	いて看護学した基礎的たすためにつ	知識・技 今後獲得					
実4年 機 う術す目 目 間 標	次 後期セメスター 看護学全教員、看護技術学講師、地域 護職者として就業を希望する専門領域 保健医療チームメンバーとして看護実 態度の獲得状況を自己評価する。また 必要のある専門的知識・技術・態度を : 学習者である看護学生と職業人であ し、直面した問題を学術的・自律的 : 1. 看護学生から看護職者への役割 2. 選択したフィールドに応じた実 3. 保健医療チームメンバーとして	必単 を 健と は と は と は と は れ に れ る に る に る に る に る り る り る り る り る り る り	選択区分位の 他護したした。 一般 できたした できたした しんしん の で 番 で で で で で で で で で で で で で で で で で	自由 2単位 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	いて看護学した基礎的たすためにつ	知識・技 今後獲得					
4年機 う術す目 目 標	看護学全教員、看護技術学講師、地域護職者として就業を希望する専門領域保健医療チームメンバーとして看護り態度の獲得状況を自己評価する。また必要のある専門的知識・技術・態度を:学習者である看護学生と職業人であし、直面した問題を学術的・自律的:1.看護学生から看護職者への役割2.選択したフィールドに応じた実3.保健医療チームメンバーとして	単そ康類に職察看解行計で	位 の 他 護学講師 したファン かしと かしと る。 番 番 で る。 も で る。 も で る。 も で る。 も の も で る り る り る り る り る り る り る り る る り る り	2単位 9 ロールドにおい これまで学習しての責務を果た で関及び機能の 要性を理解する	いて看護学した基礎的たすためにつ	知識・技 今後獲得					
機能看。・る的目標	看護学全教員、看護技術学講師、地域護職者として就業を希望する専門領域保健医療チームメンバーとして看護り態度の獲得状況を自己評価する。また必要のある専門的知識・技術・態度を:学習者である看護学生と職業人であし、直面した問題を学術的・自律的:1.看護学生から看護職者への役割2.選択したフィールドに応じた実3.保健医療チームメンバーとして	を成と践、考るに移習計では、	の 護学講師 したし、 しかしとし る。 番者 で で る。 で で る。 で で る。 で も の れ り る。 で る で る で る で る で る で る で る で る の る る る る	「 イールドにおい これまで学習し ての責務を果た 受割及び機能の 要性を理解する	いて看護学した基礎的たすためにつ	知識・技 今後獲得					
看。・る的 標	護職者として就業を希望する専門領域保健医療チームメンバーとして看護実態度の獲得状況を自己評価する。また必要のある専門的知識・技術・態度を: 学習者である看護学生と職業人であし、直面した問題を学術的・自律的: 1. 看護学生から看護職者への役割2. 選択したフィールドに応じた実3. 保健医療チームメンバーとして	健とは、考るに移習に、	護学講師にからいた。	ー イールドにおい これまで学習し ての責務を果た 受割及び機能の 要性を理解する	した基礎的。 たすために [®] の相違につ	知識・技 今後獲得					
看。・る的 標	護職者として就業を希望する専門領域保健医療チームメンバーとして看護実態度の獲得状況を自己評価する。また必要のある専門的知識・技術・態度を: 学習者である看護学生と職業人であし、直面した問題を学術的・自律的: 1. 看護学生から看護職者への役割2. 選択したフィールドに応じた実3. 保健医療チームメンバーとして	なと類に と と と と と と と と 、 き る に る に り に り に り に り に り に り に り に り に	したファン 加し、 込 し で で で で る。 で る で も で る で る の で る の で る の で る の る の る の る の	ィールドにおい これまで学習し ての責務を果た ひ割及び機能の 要性を理解する	した基礎的。 たすために [®] の相違につ	知識・技 今後獲得					
う。 ・ る 目 目 標	保健医療チームメンバーとして看護事態度の獲得状況を自己評価する。また 必要のある専門的知識・技術・態度を : 学習者である看護学生と職業人であ し、直面した問題を学術的・自律的 : 1. 看護学生から看護職者への役割 2. 選択したフィールドに応じた集 3. 保健医療チームメンバーとして	実践に考えている。 こ考る解する は、察看解行計 でいる。 はおいる。 では、表記では、またのでは、またのでは、またのでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、またでは、また	加し、 人としる。 職者の で な重要	これまで学習しての責務を果た 安割及び機能の 要性を理解する	した基礎的。 たすために [®] の相違につ	知識・技 今後獲得					
目標	し、直面した問題を学術的・自律的 : 1. 看護学生から看護職者への役割 2. 選択したフィールドに応じた実 3. 保健医療チームメンバーとして	コに解決 移行の 習計画	する重要	要性を理解する		いて学習					
□		学術的	目的:学習者である看護学生と職業人である看護職者の役割及び機能の相違について学習し、直面した問題を学術的・自律的に解決する重要性を理解する。目標:1.看護学生から看護職者への役割移行の特徴を理解する。2.選択したフィールドに応じた実習計画を作成する。3.保健医療チームメンバーとして看護実践に参加する。4.役割移行に伴い直面する問題を学術的・自律的に解決する重要性を認める。								
	授業内容		授業 方法	事前·事役 (学習課	. , .	担当					
1	オリエンテーション・学内演習(1)		講義 演習	実習計画の作	の作成・洗練 受! 数!						
2	実習フィールドにおける看護実践(1)	実習	実習記録の鏨		じて担					
3	実習フィールドにおける看護実践(2	2)	実習	実践の自己許 実習計画の作	当 教 員 を決定						
4	学内演習(2)		演習	中間評価 課題の明確(f							
5	実習フィールドにおける看護実践(3	3)	実習	実習記録の鏨							
6	実習フィールドにおける看護実践(4	1)	実習	実践の自己評	平価						
7	実習フィールドにおける看護実践(5)	実習	実習計画の作	乍成						
8	学内演習		演習	課題達成状況							
9			演習								
			12. [目標達成状況	己の確認						
【期間】 2週間 予定:平成25年2月26日(火)から3月8日(金) 【場所】 県立心臓血管センター、県立がんセンター、県立精神医療センター、県立小児 医療センター、前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、赤城病院、群馬県内の保健 福祉事務所、市町村保健センターなど 【時間】 実習場所に応じて設定 【方法】 学生が選択したフィールドにおいて実習を行う。保健医療チームのメンバーと して看護実践に参加することを通し、看護学生から看護職者への役割移行に伴 う課題を克服するための方法を修得する。											
行動					_						
 パトリシア・ベナー;井部俊子他訳:ベナー看護論―初心者から達人へ 新訳版,医学書院,2005. 日本看護協会:日本看護協会看護業務基準集-2007 年改訂版,日本看護協会出版会,2007. 筒井孝子:看護量の測定および推定のための方法論に関する研究-看護業務分類コードの作成について,看護管理,7(12),890-900,1997. 森真由美他:新人看護師行動の概念化,看護教育学研究,13(1),51-64,2004. 											
	9	9 学内演習 レポート提出 【期間】 2週間 予定:平成 25年2月26日(火) 【場所】 県立心臓血管センター, 県立か 医療センター, 前橋赤十字病防 福祉事務所, 市町村保健センタ 【時間】 実習場所に応じて設定 【方法】 学生が選択したフィールドにお して看護実践に参加することを う課題を克服するための方法を 行動目標の達成状況(100%) 1. パトリシア・ベナー; 井部俊子他訳: 学書院, 2005. 2. 日本看護協会: 日本看護協会看護業務 2007. 3. 筒井孝子:看護量の測定および推定の ドの作成について, 看護管理, 7(12), 4. 森真由美他: 新人看護師行動の概念化 5. 塚本友栄他: 就職後早期に退職した親	9 学内演習 レポート提出 【期間】 2週間 予定:平成 25年2月26日(火)から3 【場所】 県立心臓血管センター,県立がんセン 医療センター,前橋赤十字病院,伊勢 福祉事務所,市町村保健センターなど 【時間】 実習場所に応じて設定 【方法】 学生が選択したフィールドにおいて実して看護実践に参加することを通し、う課題を克服するための方法を修得す 行動目標の達成状況(100%) 1. パトリシア・ベナー;井部俊子他訳:ベナー学書院,2005. 2. 日本看護協会:日本看護協会看護業務基準集2007. 3. 筒井孝子:看護量の測定および推定のためのドの作成について,看護管理,7(12),890-94.森真由美他:新人看護師行動の概念化,看護5.塚本友栄他:就職後早期に退職した新人看護	9 学内演習 レポート提出 演習 【期間】 2週間	9 学内演習	9 学内演習					

						旨護学 音				
科目区分		教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能	聴講	否						
授業科目名	専門	的機能と看護実践		科目履修	否					
科目番号	N 1	4016	N 1							
授業形式	講義		選択							
開講時期	4年	次 前期セメスター	2 単位 30 時間							
科目責任者	中西	陽子								
担当教員	看護技術学教員、生涯発達看護学教員、地域健康看護学教員他									
授業の概要	識や にお	この授業は、これまでの看護技術学や生涯発達看護学、地域健康看護学の講義・演習で学習した 識や技術、実習におけるクライエントに対する看護過程の展開、看護実践の経験を前提とする。 において、より専門性の高い看護を必要とする人々が、健康上の問題を解決・回避し、その人らし 質の高い生活を維持・回復できるよう、看護実践に必要な知識や技術および態度を学習する。								
学 科 目 的学 科 目 標		: これまでの講義・演習や実習において習得し を必要とする人々への支援の方法と意義を : 1. 専門性の高い看護を必要とする対象の健 2. 個別の健康問題や治療に応じて、既習の 3. 看護実践における知識や技術の統合と継	支援の方法 用する方法	歩を理解する。	的な看護					
	口	授業内容	授業 方法	事前・事後学 習(学習課題) 各授業時に必要	担当					
	1	クリティカルケアを必要とする対象への看護① 手術室看護師の役割と機能)役割と機能							
	2	クリティカルケアを必要とする対象への看護② 救命救急		事後課題を提示する。						
	3	クリティカルケアを必要とする対象への看護③ 救急搬送された患者と家族の支援								
	4	クリティカルケアを必要とする対象への看護④ 心電図モニタリングと心臓リハビリテーション								
	5	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への 透析治療								
	6	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への 酸素療法								
	7	医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への 人工呼吸器の管理 医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への								
授業の内容と方法	8	大工肛門・人工膀胱の管理 医療機器や医療補助具を利用して生活する対象への								
	9	経腸経管栄養 日常生活への影響が大きい心身の問題を抱える対象								
	10	発声機能障害 日常生活への影響が大きい心身の問題を抱える対象								
	11	神経難病(ALS、進行性筋ジストロフィー) 免疫機能に問題を抱える対象への看護①								
	12	造血器腫瘍 免疫機能に問題を抱える対象への看護②								
	13	自己免疫性疾患(関節リウマチ、全身性エリテマボディーイメージやセクシュアリティーの問題を								
	14	看護① 乳がん手術後の支援(補整下着、脱毛への対処、								
	15	ボディーイメージやセクシュアリティーの問題を 看護② 男性生殖器疾患(前立腺肥大、前立腺がん)	∵抱える対象への 							
評 価 方 法		・事後課題の提出状況、講義中の小テスト、身 5回の講義等(前半7回・後半7回の講義等)の								
教 科 書	これ	までの講義・演習・実習で購入した教科書								
参 考 書 参考文献等	特に	指定なし								
備考	特に	なし								

				7	旨護字部						
科目区分	専門	教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能	聴講	可							
授業科目名	看護	隻学研究概論	科目履修	可							
科目番号	N 1	24011 クラス番号	N 1	N 1							
授業形式	講義	必修選択区分	必修	必修							
開講時期	3年	三次 前期セメスター 単 位	1 単位	1 単位 15 時間							
科目責任者	吉富	写美佐江 その他									
担当教員	吉富	吉富美佐江 岩波浩美									
授業の概要	学習 可欠	学術研究の領域と方法論、看護学に関する研究にはどのようなものがあるか、その特徴を 学習する。研究成果の活用に有効な論文を選択するためには、論文全体を読解することが不 可欠である。この授業においては、看護学研究の理解、研究論文の読解、研究成果活用に必 要な基礎的知識を学習する。									
学科目的学科目標		目的:看護学研究の意義と特徴を学習し、研究成果を実践に活用するための基礎的知識を学習する。 目標: 1. 看護学研究に用いられる基本的な用語を理解する。 2. 研究の過程を理解し、既存の研究成果を理解するための基礎知識を習得する。 3. 看護学研究の成果を実践に活用するための課題を考察する。 4. 学術的・自律的な問題解決に向けて研究成果を活用する意義を認める。									
	口	授業内容	授業 方法	事前·事後学習 (学習課題)	担当						
授業の内容と方法	1 2 3 4 5	看護学研究の特徴 - 看護学研究の定義 - 看護実践と看護学研究 - 研究活動の種類 文献検索の実際 研究と倫理 研究過程と研究論文の構成要素 研究批評と研究成果活用 看護学研究(1) - 質的研究	講義	毎回、学習課題を提示	吉 岩 岩 吉 吉						
	6	看護学研究(2) -量的研究 研究成果活用の意義と実際			古富						
	8	-研究成果活用による看護実践上の問題解決 -研究成果活用による学生・看護職者としての問題解決 筆記試験	央		古富						
評 価 方 法	筆記	已試験(100%)									
教 科 書	南裕子編:看護における研究,日本看護協会出版会,2008.										
参 考 書 参考文献等	山崎茂明他:看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版,日本看護協会出版会,2010.										
備考											

					7	有護字部					
科目区分		教育科目 専門科目 看護専門職の役割	聴講	否							
授業科目名		学研究 I (問題解決過程)	科目履修	否							
科目番号		4 0 1 2	クラス番号 必修選択区分	_							
授業形式	演習										
開講時期	4年次 前期セメスター 単 位 1単位 30 時間										
科目責任者	廣瀬規代美 その他										
担当教員	田渕	廣瀬規代美、河内美江、樋貝繁香、関根正、狩野太郎、加藤栄子、岩波浩美、北爪明子、田渕祥恵、服部美香、橋本晴美									
授業の概要	学研 感じ	この授業においては、小グループ制の授業を展開し、看護実践上の問題解決に向けて看記学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。学生は、看護学の学習を通して日々感じている問題を明らかにする。また、学習グループを形成し、焦点化したテーマ(問題に関連する文献検索を通して学術的に解決する過程を体験する。									
		学科目的:看護実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。 学科目標: 1.問題解決に向けて、看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を									
W 40 F 44		理解する。		,,							
学科目的		· · · · · ·									
学科目標		2. 看護学の学習を通して感じて	いる問題から	グルー	プテーマを焦点化	il,					
		看護学研究の成果を活用した	問題解決過程	を実施	する。						
		3. グループ討議・成果発表にお	いて主体的に	学習活	動を展開する。						
		4. 看護学研究の成果を活用した問題解決過程の価値を認める。									
	ıəi	授業内容		授業	事前·事後学習	担当					
	回	1文未刊分		方法	(学習課題)	担当					
	1	授業の目的・目標及び学習方法の理解 ①授業科目の位置づけと目的・目標 ②看護学研究の成果を活用した問題解 ③用語の定義 ④関心領域、解決したい問題によるグ	講義	①看護学の学習 を通じ感じてい る問題を指定用 紙に記載し提出 する。 (別途指示)	廣瀬						
	2	文献検索の意義と方法 ①文献検索と文献の活用 ②文献精読と文献カードの整理方法	講義		廣瀬						
	3				②演習と並行し、 グループ討議に 向け、文献を精読						
授業の内容と方法	4	問題解決過程の体験(グループワーク) ①グループにおける問題の共通性によ	- ス 門 題 紀 沈 / ァ								
1文表の27日と万伝		向けたテーマの焦点化・成文化(グ	· ·								
	5	②問題解決に向けた文献検索の実際と	演習	し整理する。							
	6	③文献精読による内容の理解、文献整			电池						
	7	④問題解決に向けた文献の選択		③演習終了後レポート課題を提出する。	廣瀬他 各担当						
	8	⑤選択した看護学研究の共通点・相違			教員						
	9	⑥学習成果発表に向けた内容の整理									
	10			(別途指示)							
	11										
	12	学習成果発表の準備 (グループワーク)									
	13	①学習成果の整理と発表用資料の準備 ②発表に向けた役割の確認と調整									
		学習成果発表 (グループワーク)		1	<u> </u>						
	14	①研究成果を活用した問題解決過程の		廣瀬							
	15	②発表内容に対する質疑応答		演習		全教員					
評価方法	行動	目標の達成状況(レポート記載内容含	む) 80%、出	席状況 1	10%、演習参加態	度 10%					
教 科 書	指定	 なし/講義にて別途資料配布									
参考書											
参考文献等		中に必要に応じて適宜提示する。									
備考		目は、4月集中科目である。日程は別途	余提示する。								
/	· F*/F1	E TO CALL THE COLOR HIETOTHE									

科目区分	専門教育科目 専門科目 看護専門職の役割と機能						聴講	П	否		
授業科目名	看護学研究Ⅱ (EBP)								否		
科目番号	N 1 4 0	1 3		クラス	番号	N 1					
授業形式	実習 必修選択区分 必修										
開講時期	4年次 通年 単 位 4単位 18							180 時間			
科目責任者	小川妙子 その他										
担当教員	看護技術学・機能看護学・生涯発達看護学・地域健康看護学全教員										
授業の概要	看護において研究成果を活用する意義を学習し、看護実践に必要な研究成果を探索・発見 し、実践に活用する方法を学習する。関心の高い専門領域を選択し、対象の持つ問題を解決										
	するために研究成果を活用した実践を立案し、看護師課程では病院などの実践場面におい										
	て、その実践の展開を試みる。また、これら一連の過程を論文としてまとめる。										
	保健師課程では地域などの実践現場において、その実践の展開を試み、看護師課程と同様に										
		連の過程を論文と		夫 扌, 严 ココ	-x=	# 	v = v + v + v = v	∃ →	加井		
		護において研究成			ノ、看記	要表践に	心安な研究 成分	トセ	床 年		
		き見し、実践に活用	19 の力伝を字質	90.							
		実践を展開するう	うで 研究成里の	の活田 (た	再空的 タ	2過程を4	会却)を涌しっ	一角召〉	生した		
		英威を展開する 題を明確化し、テ			リンロロリイ	大地往也(コロ/ で畑しく	- 77年($\mathcal{N} \cup \mathcal{N}$		
学科目的		検討を実施し、問			ラ看護E	単論等を対	架索する。				
学科目標		した研究成果を活						5。			
(評価基準)		成果活用計画書に						-			
	5. 結果	:を論述し、考察す	⁻ る。								
		〕した一連の過程を				-					
		7. 実施した一連の過程を研究発表の形式に則って発表する。									
		8. 研究成果の活用 (研究的な過程を含む) を通して、看護実践上の問題を解決することに									
	意義	を見いだす。				let viv	+	121			
	回		授業内容			授業	事前・事後学	習	担当		
		2-7/ F				方法	(学習課題)	_			
	1	オリエンテーション			講義	課題の探求 行動目標の理解	2	科目 責任者			
		「研究成果活用計画書の作成」について			الدعنو	文献検討	1				
	2				講義 領域毎	計画書の作成		学生の			
					灰水母			関心に基づき			
	3	「倫理的配慮」について			h44-470	必要時、倫理委員		超当教			
	0				領域毎	会の審査を受ける		員と相			
	4-6	研究成果活用計画書の作成			演習			談の上 決定			
	1 0	9月 7日74人 1日 7日 日				IA E			/ \		
授業の内容と方法		研究成果を活用した看護実践					看護実践の準備				
	7-16	*90 時間、2 週間程度の研修を含む			実習	倫理審査チェックルフトの確認					
							クリストの確認				
	17-20	データ分析、		演習	計画書に沿った分析、考察	-					
	91_95						規定との照合				
	21-25	論文作成		演習							
	26-27	抄録、発表原稿の作成				演習	規定との照合 効果的な発表				
						演習	効果的な発表 他の分野の発表	÷			
	28-29					領域毎	会への参加	`			
	30	「研究出田お江日	演習	行動目標確認							
	日は評価										
評価方法	行動目標の達成状況 100%										
教 科 書	指定しない										
参考書		研究概論」「看護学研		HE A LL							
参考文献等	・南裕子編:看護における研究 日本看護協会出版会 等・別途、EBP 実施要項を配布します。主体的な学習が必要不可欠です。										
備考							ため但もてい	トルタイ	旦目はない		
/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	・腹修の	先行要件は、原則と と	して、必修の等門を	E硬件日 <i>及</i>	い守門	イロツ早仏	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	大 11100个	ず丸込み		
	(U) W										